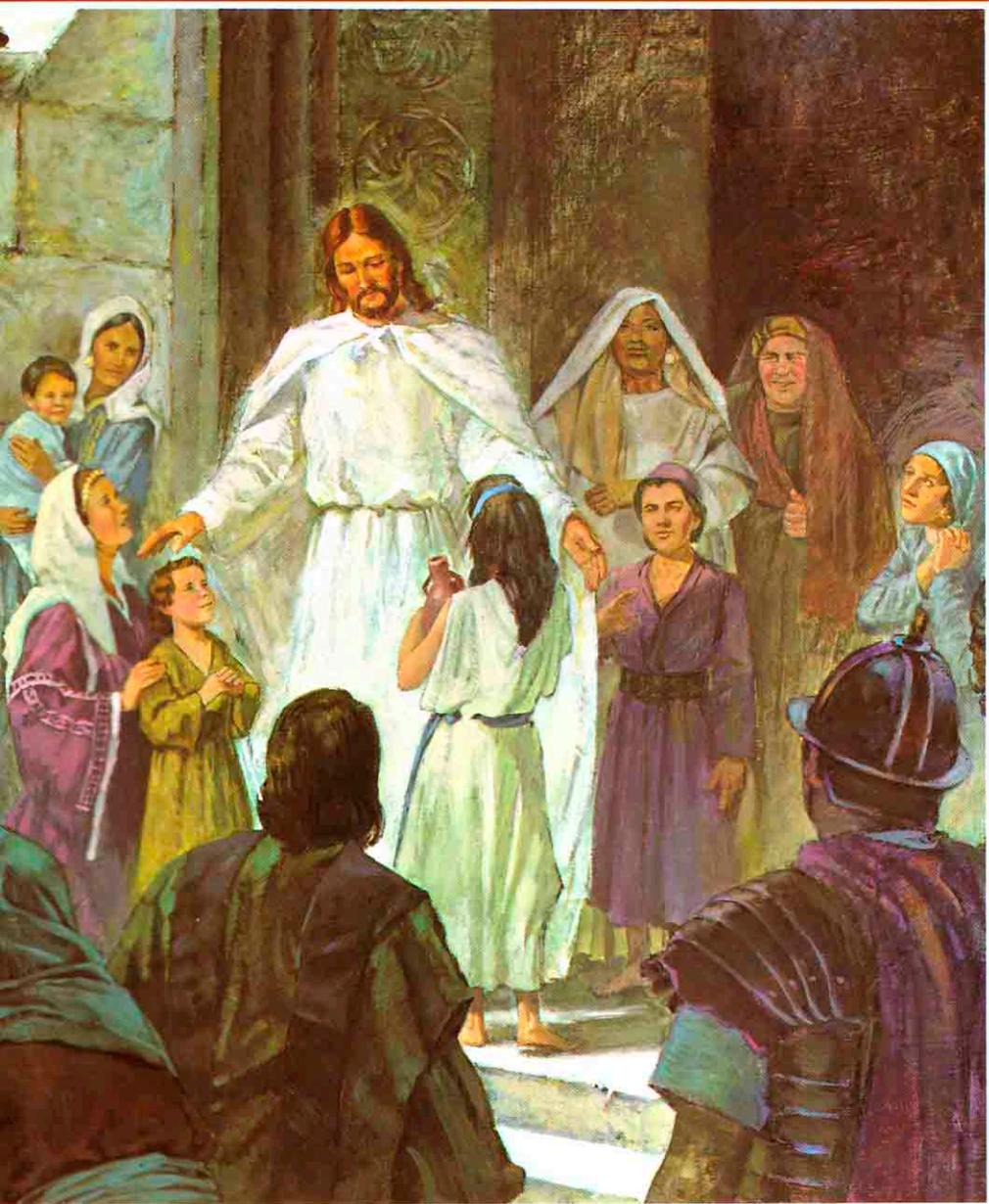


聖徒の道 8 1983





末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スベンサー・W・キンボール
マリオン・G・ロムニー
ゴードン・B・ヒンクレー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
ハワード・W・ハンター
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・バックナー
マービン・J・アッシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト
ニール・A・マックスウェル

顧問

M・ラッセル・バラード
ローレン・C・ダン
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー

編集長

M・ラッセル・バラード

国際機関誌

編集主幹：
ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：
デビッド・ミッチェル
子供の頁編集：
ボニー・ソーンダース
デザイナー：
ロジャー・ギリング
レイアウト・デザイン：
マイケル・カワサキ

も く じ

自分が何者であるかを心に留める……N・エルドン・タナー……	1
イエス：完全な指導者……スベンサー・W・キンボール……	7
質疑応答……エドウィン・Q・キャノン・ジュニア……	12
日々の恵み……	14
より良い父親となるために……教会社会福祉部編……	16
生い立ちを語る……ジム・アカーマン……	21
霊的向上のための10の提案……ジョー・J・クリステンセン……	23
あなたにとって聖霊とは……コリーン・ペアード……	30
「愛をもって互に仕えなさい」……L・トム・ペリー……	36
心を変える……シャーリー・ファンズワース・バーリン……	38
小さなお友だちへ……ジョリーン・メレディス……	42
ぼくは、もう大きいんだ……ナンシー・ファーレル……	46
ぼくのもの……	50
てんをむすんでみましょう……ビバリー・ジョンソン……	53
ローカルページ……	54

■表紙：ロバート・T・バレット画

1983年8月号 聖徒の道 第27巻第8号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社
定 価 年間予約／海外予約2,200円(送料共)
半年予約1,100円(送料共)
1部180円, 大会号350円

International Magazine PBMA0609JA Printed in Tokyo, Japan.

©1983 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号／東京0-41512）にてご送金いただければ、直接郵送致します。注：お届け先の変更がありましたら、早急に渋谷ブックセンターにご連絡下さい。●「聖徒の道」のご注文・お支払いなどの連絡先……〒150 東京都渋谷区桜丘町28-8／末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部渋谷ブックセンター／☎03-464-1617(代)

自分が何者であるかを 心に留める

副管長 N・エルドン・タナー

編集記：これはタナー副管長が1982年11月に逝去される直前に、大管長会メッセージとして準備された最後の記事です。私たちは、副管長の逝去からこのメッセージの発表予定時期までかなりの月数があつたため、掲載を見合わせて、次号に予定されていたメッセージを繰り上げて発表するか、それとも初めの予定通りにこのメッセージを掲載するかを検討しました。そして、このメッセージはいつの時代にも当てはまり、すべての人に重要な内容を持つものであり、かつタナー副管長自身の高潔な生涯をよく表わしているという判断の下に、本号に掲載することを決定しました。

私はデビッド・O・マッケイ大管長から、教会員に伝えて欲しいとメッセージを依頼されたことがあります。その力強いメッセージが脳裏に浮かんできます。大管長が教会本部を離れて他の地へ訪問できない状態の時でした。私は割り当てを受けて出発する前に、よくマッケイ大管長に助言を求めに行きましたが、そういう時に、よくこう言われたのを覚えています。「タナー副管長、その人たちの所へ行くについてお願いしたいことがあります。彼らに自分が何者であるかを思い起こし、それにふさわしい生き方をしよう、そして私たちは

それぞれにひとつの責任を負っているということに気付かせるようにして下さい。」

この言葉は私の心から永遠に消えないものとなりました。そして確かに私はこのメッセージを、全世界を旅しながら何度となく述べ伝えました。私はこのメッセージを家族に、そして自分のオフィスを訪ねて来る人々にも力説してきました。また、それを生活の中で形に表わし、自分に寄せられた信頼にふさわしい者となるよう努めてきました。

私たちは一体何者なのでしょう。まず最初に、私たちは神の霊の子供であり、次

●自分が何者であるかを心に留める



に、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であります。何と素晴らしい祝福、何と大きな責任ではないでしょうか。福音の回復、神が予言者に授けられた数々の啓示、教会を導くために神から授けられた知識を私たちに知らせてくれる予言者の存在、これらを通して私たちは知識と神権を授かるという最高の祝福と幸運に浴しているのです。神権は自分自身と家族を救い、神のみもとへ帰る助けを与えてくれるものです。

背教があり、心をかたくなにして神のみ言葉に耳を傾けず、み言葉を信じず、受け入れようとしなない人々がいました。そのため世の多くの人々が、自分自身の救いと永遠の生命という点に関して暗闇の中にいます。ですから、「光を人々の前に輝かし、そして、人々が……よいおこないを見て、天にいます……父をあがめるように」(マタイ 5:16) することは、私たちの特権であり、義務、責任でもあるのです。

これを心に刻んでおくのは大切なことです。そして、この責任を私たちに与えられたのが神であることを絶えず思い起こすなら、神の戒めに従った行ないをする上で助けとなるに違いありません。

法律を守らず、また麻薬やアルコールなどの問題を抱えている若人がいます。また、経済的な面の責任感が欠落した若人も数多くいますが、私はこういった問題の多くは大人たちの悪い見本によるものだと常々感じています。ほとんどの場合、彼らは自分が見た行ないだけをするものです。国、学校、地域社会の指導者といわれる人々の生

活を見ると、あまりと言えばあまりなほど不道徳、不正直、不誠実がはびこっています。私たちは真理、宗教、自由のために戦い、^{じゆん}殉じた人々の生活を形作っていた^{こうまい}高邁な理想、気高い原則を、何とかしてもう一度つかみ直さなければなりません。

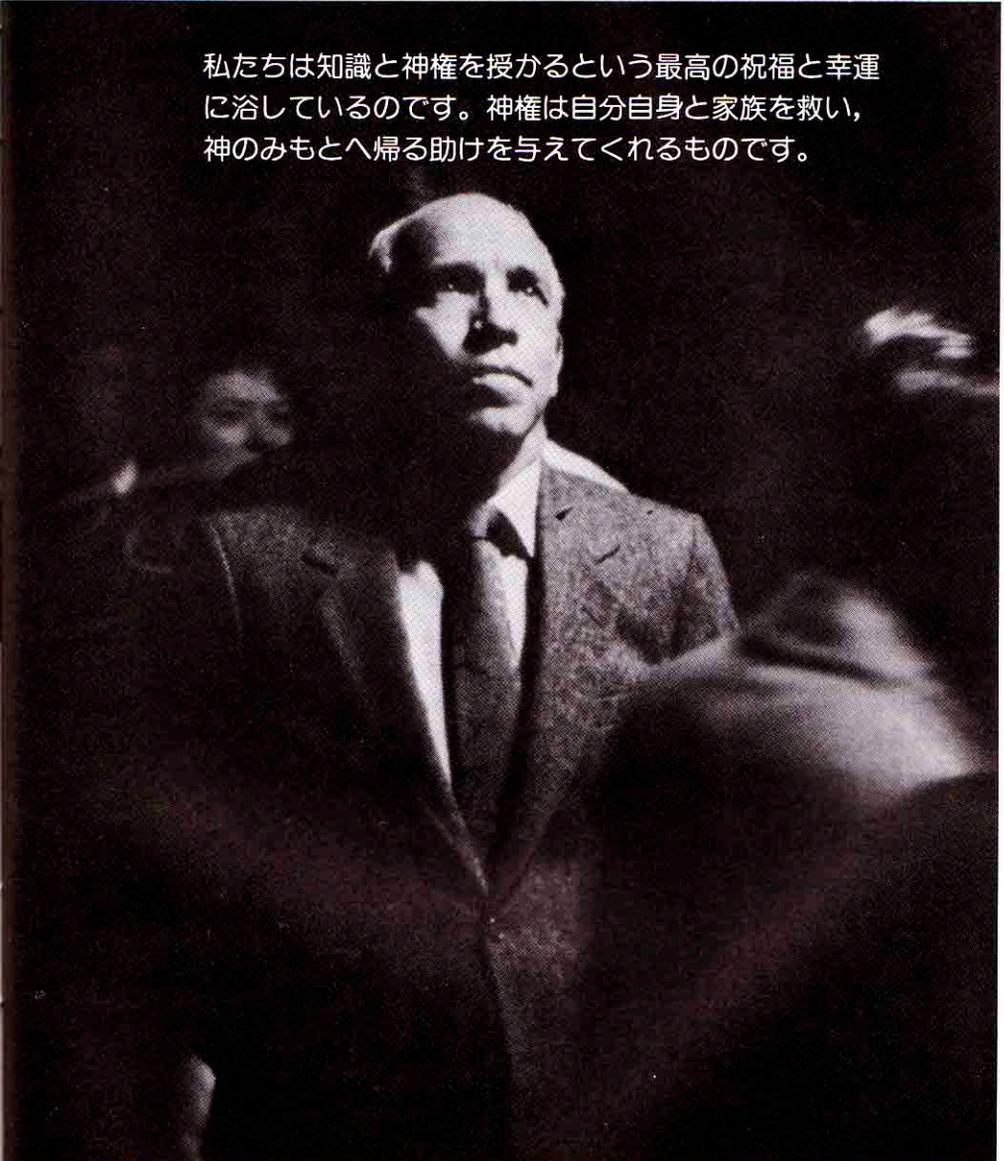
教会員は急速に増加していますが、私たちはキリストに従った生活による模範や、実際に福音の原則を述べ、教えることによって、絶えず伝道の業に励む必要があります。

カナダにいた時のひとつの経験を思い出します。私は長年の間、ある教会員でない人と一緒に仕事をしていました。私は宗教のことを話題にするのを避けていました。ふたりの親しい関係にひびを入れたくなかったからです。しかし結局、この教会の教えとイエス・キリストの福音を学んでみる気はないか尋ねてみたい気持ちになったのです。彼は興味を示し、それからすぐに奥さんと一緒に日曜日の集會に出席しました。彼らは間もなく子供と一緒に教会員となり、時間や才能を捧げて教会に大きな寄与をしました。この夫婦はつい先頃、ある伝道部を管理する責任を終えて帰還し、子供たちも様々な分野で奉仕の働きをし、幾人かは伝道の責任も果たしてきました。もし私が彼らに福音の良きおとずれを伝える責任を怠っていたら、教会にとって大きな損失となっていたことでしょう。

ある時私は彼から、長い間教会のことを話してくれず、おかげで家族が福音の祝福にあずかれなかったと責められ、2度と同



私たちは知識と神権を授かるという最高の祝福と幸運に浴しているのです。神権は自分自身と家族を救い、神のみもとへ帰る助けを与えてくれるものです。



●自分が何者であるかを心に留める



じことはすまい、自分が何者かさらによく自覚し、それにふさわしい行ないをしなればと決心しました。

西ヨーロッパ伝道部の伝道部長だった時に、駐留米軍の軍人たちと知り合う機会に恵まれました。軍人ステーキ部のステーキ部長から次のような面白い話を聞かされたことがあります。

彼はそのステーキ部の幹部書記をしている時に、自分の隊の将官に呼ばれ、補佐役として働く気はないかと言われました。その責任に就くと、将官が行く所へはどこへでも付いて行かなければなりません。教会の召しと家族に対する責任への影響を考えた彼は、辞退したいと言いました。

するところ言われました。「君は家族と教会のことで、この話を断わると言うのか。」

「はい、おっしゃる通りです」と答える

と、
将官は「分かった、この話はなかったことにしよう」と言いました。ところが、数日するとまた彼を呼び出し、教会と家族に対する責任が果たせるように必要な調整はするから、考え直してもらえないかと言ってきたそうです。

専任宣教師を務めたことのあるもうひとりの軍人は、フランスで2年半伝道していた時よりも、軍務の間の1年半の方が多くの人にバプテスマを授け改宗させることができたと話してくれました。これが、自分が何者であるかを知り、それにふさわしい生き方をするということです。

マッケイ大管長の数々のメッセージの中

には一貫してこのテーマが流れています。そのことを示す意味で、私が初めて副管長に支持された時の総大会で大管長が話された言葉の中から引用してみたいと思います。

「教会はこの世の生涯は試しの時であると教えています。本能の奴隷とならずに、逆にこれを治める者となることは人の義務です。肉体的な欲望は自分で治めるべきものであり、健康と長生きのために用いるべきものです。また激しい感情も幸福と他の人の祝福のために支配し統御する必要があります。

人の最高の幸せは、他の人のために無私の行ないをすることによってもたらされるものです。現在に至るまでの科学の進歩と様々な発見は、必要とあらば喜んで真理のために身を捧げてきた人々の努力の結果です。

もしこれまで聖霊のささやきに従った生活をし、これからもそうしていくなら、皆さんの心は幸福感で一杯になるでしょう。もしそれからはずれ、自分で正しいと知っていることをしてこなかったという気持ちになるなら、たとえこの世の富を手にいようとも、悲しみへの道を歩いていることになります。」(Conference Report, October 1963)

マッケイ大管長が自ら語られた最後のメッセージは、1966年10月2日の日曜日の話です。(大管長は別のメッセージを準備していたが、それは息子たちが代読した) その最後のメッセージから引用してみます。

「末日聖徒イエス・キリスト教会は神の



私たちには、神が現在天におられ、また神の御子イエス・キリストが私たちにひとつの計画を与えて下さったという知識があります。この主の計画によって、私たちは……永遠の生命を授かるのです。

みこころがこの神権時代に明らかにされてきたこと、また福音の原則、人生の原則が啓示されてきたことを、世に向かって証しています。それらは皆、時の絶頂にキリストが教えられた原則と一致するものです。神のみこころであるすべての原則についてここでお話することはできませんが、聖典に書かれているように、それらは非常に簡潔で「愚かなる者はそこに迷い入ることはない」（イザヤ35：8）ものなのです。

自分が福音の原則と儀式に従ったなら、次はその神のみこころを隣人に伝え、人々に幸せをもたらし、自分もその中に生きるひとりとして世の中を良くしていかなければなりません。キリストは御自身のすべてを捧げて私たちにその原則を教えられました。そしてこう言っておられます。『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』（マタイ25：40）これが、神が私たちに授けて下さったメッセージです。この教会は完全に組織された神の教会であり、他の人に善を行なう機会が、大人や子供を問わずすべての人に与えられています。それは神権者の務めです。また補助組織で働く人々、神に仕え、そのみこころを行なうすべての人々の責任です。現にそれを行ない、これからも続けていく人は、実際に試した結果として、それが神のみ業であるこ

とをさらに強く確信するようになるでしょう。私たちは神のみこころを行なうことによって、神を知り、さらに神に近づき、永遠の生命が与えられると感じるようになるのです。私たちはどこにいても、すべての人に愛を感じるようになり、古代の使徒と共にこう叫ぶことができます。『わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。』（1ヨハネ3：14）」（Conference Report, October 1966）

現在の予言者、スペンサー・W・キンボール大管長もこれと同じ宣言をしています。キンボール大管長はそのメッセージを、私が彼の副管長として最初に支持された総大会の最後の説教の中で語られましたが、その中にはマッケイ大管長が語られたと同じことが非常にはっきりと出ています。キンボール大管長はこう話されたのです。

「私たちは主に仕えようとしており、その目的が正しく、尊いものであることを確信しています。しかし何にもまして、私たちには、神が現在天におられ、また神の御子イエス・キリストが私たちにひとつの計画を与えて下さったという知識があります。この主の計画によって、私たちと愛する者たちは、忠実であれば永遠の生命を授かるのです。この永遠の生活は、達成と喜びと発展に満ちた、多忙な、目的のある生活に

●自分が何者であるか を心に留める



なるでしょう。

皆さんは、この世においてこれまでに味わった喜びの中から最も大きなものを思い出せると思います。ところが次の世の生活はそうした喜びを伴った生活の延長であってしかもこの世に増して大きく、倍加された、しかももっと望ましい、意味の深い事柄を伴うのです。この世の交わりすべてを通して、皆さんは進歩と喜びと成長と幸福を得ることができます。そしてこの世の生涯を閉じた後も私たちは、現世に似た状態の下に置かれるのです。ただ現世と異なる点は、制限が少なく、もっと光栄があり、大きな喜びがあるということです。」(Conference Report, April 1974)

主の再臨まで、時も残り少なくなってきました。きょう私はすべての人に、何よりもまず、自分が何者であるかを心に留めるようにして下さいと、特に強く申し上げたいと思います。私たちに命と愛、そしてこの教会の会員としての特権、家族、友人、隣人を与えて下さった神に感謝しようではありませんか。

親切で思いやりのある人間になり、自分の最善を尽くし、愛と哀れみを示すようにしましょう。キリストの生き方と奉仕なごころに倣った生活をして模範を示すなら、すべての人がその実と行ないを見て、私たちが神の息子、娘であり、主の教会の会員であることを知るようになるでしょう。

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングの時、以下の

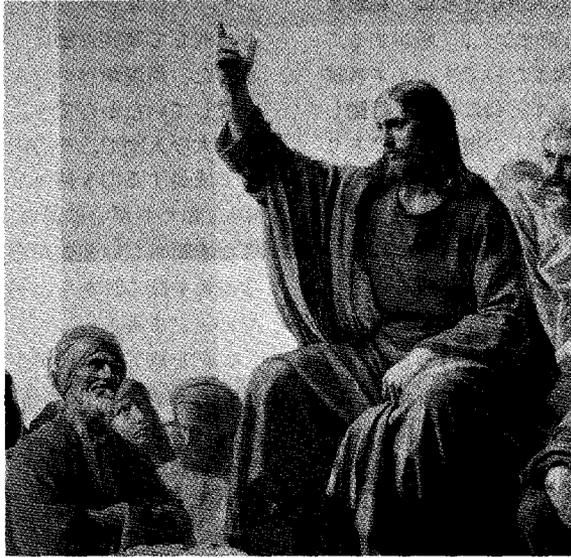
点を強調するとよい。

1. 私たちは自分が何者であるかを思い起こし、それにふさわしい生き方をしなければならぬ。私たちは一人一人それぞれに責任を負っている。
2. 福音の回復、また現代の予言者に与えられた数々の啓示を通して、私たちは知識を授けられ、自分と家族を救いに導き、神のみもとへ帰るための力となる神権にあずかる恵みを得ている。
3. 一人一人がキリストに従った生活をすることにより模範を示し、また実際に福音の原則を宣べ、教えることによって、絶えず伝道の業に励む必要がある。
4. マッケイ大管長はこう語った。「神のみこころを隣人に伝え、人々に幸せをもたらし、自分もその中に生きるひとりとして世の中を良くしていかなければなりません。」

話し合いのための提案

1. 自分が何者であるかを心に留め、それにふさわしい生活をするという点について、自分の経験や感じていることを話す。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

イエス・完全な指導者



スペンサー・W・キンボール大管長

主 イエス・キリストの並はずれた指導力は、とてもわずかな紙面の中で語り尽くせるものではありませんが、主が完全な形で示して下さった、指導者としての資質や方法論に焦点を当てて考えてみたいと思います。それらは、もし私たちが指導者として何らかの有意義な成果を得るためには、非常に重要なものです。

不変の原則

イエスは自分が何者であり、なぜこの地上に来たのかを理解していました。ですから、その道は疑いや弱さではなく、力へ通じる道だったのです。

イエスは確固とした原則と真理に基づいて行動し、その場しのぎに規則を考えていくようなことはしませんでした。つまり、その指導法は理にかなっていただけでなく、一貫性を持ったものだったのです。現代のこの世の指導者の多くはカメレオンのよう

です。彼らは周囲の状況に応じて自分の色を変え、言葉を変えます。それは、どの道を進んでよいのか迷っている仲間や付き従って来る人々を混乱させるだけです。原則

イエス：完全な指導者

を無視しても権力に執着するようになると、最後は自分の権力を守るためには何でもするという結果になる場合がよくあります。

イエスは幾度か、「私についてきなさい」と言いました。イエスが私たちに「私が言うことをしなさい」ではなく、「私がすることをしなさい」と教えたのです。イエスは自分が仕えるべき人々と共に歩き、行動しました。イエスは雲の上の指導者ではありません。親しく交わることを恐れませんでした。付き従う人々がそれによって失望するのではないかというような心配はしていませんでした。優れた指導力を持っていても、自分が指導すべき人と親しく接し、彼らに仕えるのでなければ、指導者として人を向上させることはできません。

イエスは高德な生活をし、それによって自分自身の内に力を保っていました。ある人が群衆の中にいたイエスの衣に触れた時、イエスの内から力が出ていったと書かれています。(マルコ 5：24-34参照)

他の人を理解する

イエスは人の声によく耳を傾ける指導者でした。イエスは他の人に対して完全な愛を持ち、人の話を聞く時に恩着せがましくもったいぶった態度をとるようなことはしませんでした。偉大な指導者は人の声だけでなく、自分の良心と神のささやきにも耳を傾けるものです。

イエスは忍耐強く人々に訴え続けた、愛の深い指導者でした。ペテロが剣を抜いて大祭司の僕に切りかかり、その右の耳を切り落とした時、イエスは「剣をさやに納めなさい」(ヨハネ 18：11)と言いました。そ

して怒ることもなく、静かにその僕の耳を癒したのです。(ルカ 22：51参照)ペテロへの叱責は穏やかながらも断固としたものでした。

イエスは弟子たちを愛していたので、彼らに対して率直な態度で接することができました。何度かペテロを叱責したのも、彼を愛していたからです。そしてペテロもまた偉大な人物で、その叱責の言葉を肥料として成長する力を持っていました。箴言の中に、私たちが心に留めておくべき、次のような素晴らしい聖句があります。「ためになる戒めを聞く耳をもつ者は、知恵ある者の中にとどまる。

教訓を捨てる者はおのれの命を軽んじ、戒めを重んじる者は悟りを得る。」(箴言 15：31-32)

指導する立場にあれ、指導を受ける立場にあれ、「ためになる戒め」に耳を貸すことのできる人は賢い人です。ペテロにそれができたのは、イエスが自分を愛していることを知っていたからです。そしてイエスもまた、王国の中の極めて大切な責任にペテロを備えさせることができたのです。

イエスは確かに罪を悪と見ていましたが、同時に、罪はそれを犯した人の心の奥深くにある、満たされない欲求から生ずるものだと考える度量も備えていました。ですから罪を責めても、罪人を非難することはありませんでした。

たとえある人の間違いを正すように求められた場合でも、愛を示すこともできます。私たちは人の生活の奥深くにあるものを見極める力を備え、その過ちや欠点の根本的な原因が理解できるようにならなければな



りません。

私心のない指導

救い主の指導にはまったく私心がありませんでした。自分と自分の必要とは二の次にし、責任として求められる以上のことをし、精力的に、また愛と力をもって人々に奉仕したのです。非常に多くの人が自分の望みをかなえるために、自らの人生に対しても他の人々に対しても過大な要求をしています。現代の世の中の問題は、ほとんどそういった利己心と自己本位なものの方根差しています。

イエスは人々を指導するに当たって、人を自分の意のままに操作するのではなく、相手の立場になって理解することの大切さを特に強調しました。人を巧妙に扱おうとする、小手先だけの指導が持つ問題のひとつは、それが人を愛する気持ちではなく、人手が必要だからという発想に基づいている点にあります。このような指導者は他の人の必要ではなく、自分自身の都合だけを考えているのです。

イエスは様々な問題や人間を大局的な観点からとらえていました。そして、自分が語った言葉が、その場で直接聞いていた人々だけでなく、2000年後に本で読む人々に対してもどのような効果や影響を及ぼすかを、客観的に細かい点まで計算していたのです。この世の指導者の多くは、当面の苦勞を回避しようとして、問題の解決を急ぎますが、後になってそれがさらに大きな問題や苦勞となってきます。

責任

イエスはどのようにして弟子たちを成長させていったらよいかをよく理解し、彼らの進歩のために、大切に有意義な責任を与えました。イエスはまた弟子たちを信頼し、彼らが成長できるように、自分に託されていた責任を委任しました。これこそイエスの指導が私たちに与えてくれる最高の教訓のひとつです。人間のことは深く考えず、とにかく仕事だけを早く確実に仕上げようという考えなら、確かに仕事そのものはうまくいくかも知れません。しかし、自分に付いて来る人々の進歩や成長はありません。それこそ最も重要な点なのです。イエスは、この世の生涯には目的があり、人がこの地上に置かれているのは与えられた責任を果たし、成長するためだということを知っています。だから進歩成長が人生の大きな目標のひとつとなり、財産となるのです。私たちは人の過ちを見ても、優しく有益な方法で、それを正すためのフィードバックをすることができるのです。

イエスは、自分が導く人々にチャレンジすることを恐れませんでした。イエスはペテロたちに網を捨てて付いて来るように求める勇気を持っていました。それも、漁の季節が終わった後でとか、もう1度網を打ってからというわけではありません。きょう、今、付いて来なさいというのです。イエスは人々に、自分が彼らと彼らが持つ可能性を信頼していることを知らせました。だからこそ、新たな分野で成功を取めようと努力する彼らに、惜しみなく援助を与えたのです。イエスは弟子たちを信じていました。弟子たちの今ある姿だけでなく、彼らの将

イエス：完全な指導者

来への可能性をも信じていたのです。私たちは理にかなった実際的なチャレンジをすることによって、人の成長を助け、愛を示すことができます。

イエスは人々の受け入れる能力に応じて、真理を教え、責任を与えました。力以上のものを与えて途方に暮れさせるようなことをせず、彼らの人格を成長させるに十分なチャレンジを与えたのです。イエスは人間の本質と、表面的な変化ではなく永続的な変化をもたらす根本的な原則に心を寄せていました。

責任を持つ

イエスは私たちに、人はその行ないだけでなく、心の中の思いにも責任を持たなければならないと教えました。もちろん、確固とした原則がなければ、責任を執るということもあり得ません。優れた指導者なら、自分は管理下にある人々に対してだけでなく、神に対しても責任があることを心に留めるはずです。指導者として自分自身に責任ある態度を執るならば、他の人に対しても、さらに強くそれぞれの行動、働きに責任を持つよう訴えることができます。

賢明な時間管理

イエスはまた、賢明に時間を用いることがいかに大切かを私たちに教えました。これは一刻も休まず始終働いていなければならないという意味ではありません。人間には深く物事を考えたり、気持ちを一新させるための時間も必要です。時間を無駄に過ごしてはならないということです。私たちが時間を用いて対処しなければならない事

柄は実に多くあります。しかし、我を忘れるほどに動き回ったり、騒いだりしなくても、上手な時間管理はできるはずです。

世間一般の指導者

私たちが、優れた指導者として心からの愛と賛辞と敬意の念を捧げる人々は、多くの点で、イエスがこの地上での生活と指導の中で示した資質を備えています。私たちが彼らを尊敬する理由はそこにあります。

逆に言うと、歴史上の人物で民を悲惨な状況に追いやった指導者たちは、このガリラヤ人が示した資質をほとんど持っていなかったという点に、その悲劇性があるのです。私たちが皆完全な指導者になるということはないでしょう。しかし、偉大な理想像を目指して一生懸命努力することは、だれにもできるはずです。

可能性

ガリラヤ人、主イエス・キリストの教えの中で最も大切なのは、私たちに素晴らしい可能性があるという教えです。イエスは私たちに、天の御父が完全なように完全な者になりなさいと言いましたが、これは私たちが^{あざむ}嘲っているのでも、からかっているのでもありません。イエスは私たちの可能性、潜在的な能力について力強い真理を語ったのです。それは心の中に深く思いはかる価値を持つ非常に素晴らしい真理です。イエスが私たちに欺くはずがありません。イエスは私たちが完成への道をさらに前進するよう、招き寄せようとしているのです。私たちがまだイエスのようには完全ではありません。しかし、私たちが自分たちの周



囲の人々に努力し成長している姿を示さなければ、彼らは私たちを手本とすることができず、逆に私たちを教えに対してあまり真剣でない者として見るようになるでしょう。

善をなし、善なる者となるための機会は、今私たちが気が付いている以上に数多くあります。その機会は私たちの周囲の至る所にあります。今の時点でどの範囲まで実質的な影響力を及ぼせるかはともかく、たとえわずかでも歩みを進めていくなれば、その範囲をさらに広げることができるでしょう。私たちがさらに多くの善を行なおうと望むなら、良い影響力を受け、愛されたいと願っている人がたくさんいることに気が付くはずです。

私たちは駐車場、オフィス、エレベーターなど様々な所で人に会いますが、その人たちは皆、神が私たちに愛し、仕えるようにと望んでいる人々なのです。もし私たちの周囲にいる人を兄弟姉妹としてみることでできないとしたら、人類は皆兄弟であるなどと言っても、何の益にもなりません。もし私たちが示している人間愛の模範が貧弱なものであるなら、イエスが話してくれたひとつのたとえ話を思い起こす必要があります。その中でイエスは、偉大さとは物差しや秤で測れるものではなく、それぞれの人生の質の問題であることを気付かせてくれました。もし自分の才能や身の周りにある数々の機会をよく生かすなら、それは必ず神の目に留まるはずです。そして、そのような人々にはさらに多くのものが与えられることでしょう。

聖典には、イエスほどではないまでも非

常に大きな感化力を持った指導者たちの素晴らしい事例がたくさん載っています。何度も繰り返して読むなら、非常に有益なもの学ぶことができるでしょう。私たちは、人を指導するという点について何千年にもわたって積み重ねられてきた知恵と、それよりもさらに重要な、正しい指導をするための基となる確かな原則を聖典が提供してくれていることを忘れてはいないでしょうか。聖典は向上心を持った指導者のための教えを載せた参考書です。

完全な指導者

大きな成功を得たいと思うなら、イエスを手本とすべきです。内的な成熟、意志力、勇気など、人を高める完全で素晴らしい資質をすべてこのひとりの人物の中に見ることができます。

これまで様々なことを話してきましたが、私がイエス・キリストについて語ることのできる最も重要なことは、イエス・キリストはその教えを身をもって示したという点です。聖典の中で求められているすべての徳や特質を、実際の行ないで見せてくれたのです。そのことが理解できるようになるなら、私たちは人間とこの世界の本質も理解できるのです。もしその真理と事実を受け入れないなら、幸せに満ちた奉仕の生活を送るためのより所となる、確かな原則や素晴らしい真理を得ることはできません。別な言い方をすると、完全な指導者イエス・キリストの存在を認め、キリストを光として進むべき道を照らすのでなければ、優れた指導者となるのは極めて困難なことなのです。

より良い父親と なるために

教会社会福祉部編

父親の影響力の必要性

この世で最も必要なものを挙げなさいと聞かれたら、私は何のためらいもなく、賢い母親と……模範的な父親と答えるでしょう。」(デビッド・O・マッケイ大管長)

親としての務めは、私たちに与えられる責任の中で、最も大きな影響力を持つものです。母親の役割について強調されることがよくあります。確かに母親は家庭の幸福に大切な存在です。しかし正しい父親が

与える感化力も同様に重要なものです。専門家の研究によると、父親対子供、父親対母親の個人的な関係は、子供の知力、情緒、社会性の成長、また男らしさ、女らしさ、さらには将来それぞれが結婚生活を営んでいく能力にまで影響を及ぼすということです。スペンサー・W・キンボール大管長はこう言っています。「今の世にあっても永遠にわたっても、最も大切な地位は父親としての地位である。」(メルケゼデク神権定員会用個人学習ガイド1980-81「わが僕らを受けいる者はわれを受くればなり」p. 232)

子供のことを優先させる

「見よ、子供たちは神から賜わった^{しげょう}嗣業であり、胎の実^は報いの賜物である。壮年の時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。」(詩篇127：3-5)

お気に入りのネクタイを犬にかませしてしまう小さな子供や、真夜中の2時頃帰って来て、「時間たつのを忘れてた」としか



パパの時間

言わないハイティーンの息子を持つ親にすれば、祝福とばかりは言いきれないと感じる時もあるでしょう。

子供たちは大きな祝福であると同時に、大変なチャレンジでもあります。父親としての私たちの責任は非常に大きなものです。

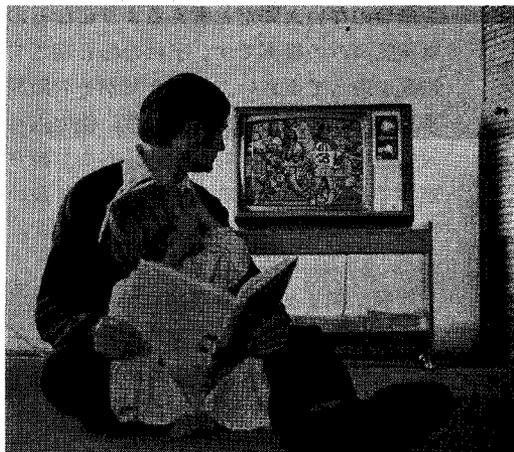
(マタイ18:10; マルコ9:37; エペソ6:4; 教義と聖約68:25-28; モーサヤ4:14参照) 他のすべての重要な責任についても言えるように、子供との関係においても成功を収めるためには、子供のことを優先させなければなりません。

リチャード・L・エバンズ長老が次のように言っています。「すべてのことには、優先順位というものがあります。子供が真剣に何かを聞いてきた時、それに答えてあげるといえるのは、私たちに最も強く求められている事柄のひとつです。子供はいつも親に質問し、親の言うことを聞き、親の話に耳を傾けてくれるとは限らないということを忘れないようにしましょう。しかし、心から関心をもって子供の話に耳を傾けるならば、おそらくその後も続けて、親の所へ来て、尋ねるようになるでしょう。もし小さなことに関して親は信頼できると思うようになれば、もっと重要なことについても、親を信じ頼ってくるようになるでしょう。」

(*The Spoken Word*, KSL Broadcast, 31 Jan. 1970)

時間

「父親の皆さん、子供たちのそばにいて下さい。……これは、父親の最も大切な財産である時間を与えるということです。」



(A・セオドア・トル, Conference Report, October 1973) 生活背景、年齢が様々に異なる2,000人以上の子供を対象にしたある調査で、次のような質問がなされました。「あなたにとって、素晴らしいお父さんとは、どんなお父さんですか。」これに対する子供たちの声を要約するとこうなります。「ぼくのために時間をとってくれるお父さん。」実際皆さんが子供たちと過ごしている時間を合計してみてください。自分で考えていたより少なかったのではないのでしょうか。生後3カ月の乳児を持つ父親を対象にしたある調査によると、父親たちが乳児たちに接する時間は、1日わずか38秒という数字が出ています。子供と過ごす時間を十分に取らないと、父親として及ぼすことのできる大切な良い影響力を与えないことになるばかりか、場合によっては子供の心に傷を残すことにもなります。親にかまってもらえず、無視され続けた子供が、自分

より良い父親 となるために

を価値のない人間だと考えるようになるのは実証済みの事実です。子供たちと過ごす時間を取って下さい。子供たちがその時間を通して、自分自身、また人生、他の人々（父親を含めた）に対して肯定的な気持ちを持つるように助けることこそ、より良い父親となるための大切な第一歩なのです。

時間に関する様々な問題

「体の大きさはどうであれ、あなたが子供たちを腕に抱いて、その子を愛しており、永遠に一緒にいられるのがうれしいと話しかけたのは、最近ではいつのことだったろうか。」(スペンサー・W・キンボール 『家族に流れる海流』「聖徒の道」1975年7月号, p.292)

時間はとても大切なものであり、また多くの問題の原因が父親と子供の関係にあります。皆さんが今父親として抱えている問題で、次に挙げる事柄の中に含まれるものはないでしょうか。

時間が足りない

自分にはあまり時間がないと考えている人もいます。いつも教会の責任や社会的な責任で忙しく、家庭はその間にあるただの停車駅というようなことはないでしょうか。子供とのわずかな会話を、「忙しいんだから、邪魔しないでくれ」という言葉でいつも終わらせてはいないでしょうか。

他の事柄に気を取られる

子供と一緒に時間を取っているといっても、他のことを考えたり、しているのでは

一緒にいないのと同じです。寝る前に本を読んでやりながら、テレビの野球中継に気を取られているようなことはないでしょうか。宿題を手伝いながら、自動車の修理のことを頭にちらつかせたりはしていませんか。それでは、体はそこにあっても、心は別の所へ飛んでいることになります。

フラストレーション

子供と一緒に過ごしなが、それを重荷に感じたことはないでしょうか。また、子供を連れて動物園へ行った時に、来なければよかったなどと感じたことはないでしょうか。子供と一緒にいながら、ほかにもっとやりたいことがあるのに、時間ももったいないなどと考えたことはないでしょうか。父親としての義務にフラストレーションを感じ、自分が父親であることさえもうらめしく思っている人がいます。

子供の相手をする余裕がないほど忙しくなったり、よそのことに気を取られ、いらいらしたりすることが時々あります。それは多くの父親が経験することです。危険なのは、こういった問題が頻繁に、また子供の心を傷つけるような形となって表われることです。

子供と一緒に過ごす時間を取る

「子供は私たちの最も大切な財産です。そして子供たちは私たちの時間を必要としています。」(N・エルドン・タナー)

皆さんはこういった時間的な問題を防ぐためにどのようにしているのでしょうか。子供に及ぼす父親の影響の重大さに気が付き、

親子が一緒に活動するのは、子供たちにとって非常に有意義なことです。それが子供たちの望みの活動である場合はなおさらです。……大切なのは、……(父親が)その場にいるということです。

親子が一緒に活動するのは、子供たちにとって非常に有意義なことです。それが子供たちの望みの活動である場合はなおさらです。……大切なのは、……(父親が)その場にいるということです。

優先順位を子供に置くと決心した人に、以下の3つの段階を行なうよう提案します。

関心を払う

話をする時は目と目を合わせて、子供に対する関心を示して下さい。関心を示すとは、新聞やテレビにではなく、子供に目を向けることであり、耳に入る言葉を聞くだけでなく、相手の心を理解しようと努力することです。それはまた、話し合っていることについて相手の考えを聞くことであり、うるさがらずに心からの興味を示すことでもあります。話す言葉そのものも大切ですが、その時の顔の表情、声の調子なども劣らず大切です。関心を向けていることを体で表現して下さい。

体験を話す

子供と、お互いの考え、知っていること、関心や興味、希望、好きなこと、嫌いなことなどについて話し合う時、あなたの実際の経験を話してあげて下さい。小さな子供たちに、初めて飛行機に乗った時のことを話してみてもどうでしょうか。年上の子供に、最近読んだ良い本について話すこともできるでしょう。人生の中で経験してきた様々な出来事を話してあげて下さい。確かに自分の内にとどめておくべき個人的な事柄もありますが、多くの人がかもって子供と打ち

解けることができるようになるはずで

子供と一緒に何かをする

子供には、家族で何かの活動や、その家の習慣になっていることをするのも必要です。何か特に計画した活動(キャンプ、美術館や図書館に行くことなど)や、日常なこと(散歩、畑仕事、買物)と一緒にするのも、子供との触れ合いを持つ大切な方法です。

親子が一緒に活動するのは、子供たちにとって非常に有意義なことです。それが子供たちの望みの活動である場合はなおさらです。しかし、何をするかは二次的な問題です。大切なのは、父親が子供に心を向けており、しかもその場にいるということです。そしてもうひとつ忘れてはならないことがあります。父親がそばにいるのは、男の子だけでなく、女の子にとっても大切なことなのです。

「後で」と言わずに、今

「今すぐそれを決意しなければならないのには理由がある。時がたち、日が過ぎ、月がめぐるうちに、決意はだんだん鈍るからである。」(ニール・A・マックスウェル『なぜ引き延ばすのか』「聖徒の道」1975年4月号, p.184)

父親が子供に対して、「後で」と言う場合

より良い父親となるために

がよくあります。「後で手伝ってあげる。今は忙しいから。」「今は邪魔しないで、後でね」などという言葉をよく聞きます。父親に求められているのは、「後で」を今に変えることです。今すぐ、この貴重な時間を用いて、子供たちが必要としている事柄に前向きに伝えていくようにしましょう。子供はどんどん大きくなっていきますが、幾年をとっても、父親と過ごす時間が必要でなくなることはありません。

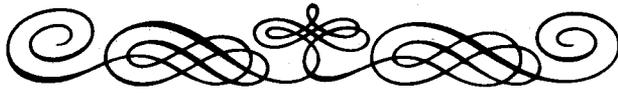
次の週のスケジュールを確認し、子供たち一人一人と過ごす時間をとるようにして下さい。1週間に1度、お休みを言う前の15分だけでもよいでしょう。最後に載せた時間表を用いてもかまいません。すでに約束がしてあって、絶対に変更できない時間帯を線で区切ります。子供にも各自の予定を聞いて、同じようにします。それから、双方が都合のつく時間内で、スケジュールを組みます。子供が本当に必要としているのはあなたであることを忘れないで下さい。

「主イエス・キリストが御自身の教会を見捨てたというような記録が聖典のどこにあるでしょうか。主が御自身の民、隣人、友、同じ業に働く人々に不実であったというような記録を聖典の中に見つけることができるでしょうか。主は信義を守る御方ではなかったでしょうか。誠実な御方ではなかったでしょうか。善きもの、価値あるもので、主が私たちに与えて下さらなかったものが何かあるでしょうか。……

夫がそのようにして、喜んで家族に接するなら、妻子もそれと同じように、その愛と模範の精神に満ちた指導に応えるようになるでしょう。妻だけではありません、子供たちも皆そうなるのです。自然にそうなります。あなたからそれを求める必要はないでしょう。……」(スペンサー・W・キンボール, "Men of Example," unpublished address to religious educators, Church Educational System, 12 Sept. 1978, pp. 4-5)

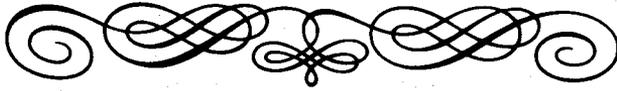
時間表

	日	月	火	水	木	金	土
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							



生い立ちを語る

ジム・アカーマン



ピーターソン兄弟は多くの人の目から見れば、成功した部類に入る人でした。しかし貧しかったその幼年時代、8人兄弟と病弱の父親のこと、また父親の闘病時代にほかの子供が持っている物を、うらめし気に見るしかなかった時の惨めな気持ち、劣等感が原因で福音の幾つかの原則に不従順になった時の思い出などを語ると、定員会の会員は皆、心を奪われたように聞き入りました。彼には結婚を考えていた女性がいる、彼女から悪い行ないをやめて伝道に出るように言われたということでした。それから、伝道に出て行く時の歓送会に話が及んで、彼はこう話しました。

「私は何を話しているのか分からず、丸1週間思い悩みました。それで最後にブルームフィールド兄弟を尋ねました。『ブルームフィールド兄弟、あと2時間もしない内に皆の前で話をしなくちゃならないんだけど、何て言ったらいいのか、さっぱり分らないんだ』と言うと、彼は何を話したらよいかを教えてくださいました。それを書き留めた後で、私はこう言われました。『そして最後に、私はペテロ、ヤコブ、ヨハネがジョセフ・スミスにメルケゼデク神権を回復し

たことを知っていますと言えばいいんだ。』ところが私はそれまで、ペテロ、ヤコブ、ヨハネなる人々がどんな人だったのか全然知らなかったので、『それ、どんな人たち』と聞かざるを得ませんでした。それから1週間以内に伝道に出ようという時にです。」

神権会の時、各会員にそれぞれの生い立ちを話してもらう時間を設けてはどうかという提案は監督から与えられたものでした。監督はワード部の各メルケゼデク神権グループの指導者に、定員会会員同士のつながりが強まるだけでなく、ワード部の会員たちに個人の歴史を書くように勧める上でも効果的だと提案したのです。

七十人会長カウアウト兄弟は監督の提案に従って、月に1度の特別集会でそれを実行することに決めました。カウアウト兄弟がそう決めたのは、常任の教師にレッスン準備の緊張から解きほぐされた時間を与えるのと、定員会のビジネスに関する事柄を細かい点まで話し合う時間をとるためでした。もちろん神権会の靈性を失わないようにすることも忘れてはいませんでした。

これによって神権会の時間がふたつに分けられました。前の方の時間では、ホーム

生 | い | 立 | ち | を | 語 | る |

ティーチング、系図、家族の備えの6分野に関する勧告、そして七十人のクラスでは言うまでもなく伝道活動という大切な責任など、定員会のビジネスに当てられました。そして、その後の残りの約20分くらいの時間を皆が楽しみにして待つようになったのです。その時間は全部、それぞれの生い立ちや証を話す時間として、毎回ひとりの会員に与えることになっています。

カウアウト会長は、この進め方が成功するかどうかは、定員会の各会員がその生い立ちを語る時間にかかっていると強く確信し、こう言っています。「今のところはうまくいっています。すっぽかしたりする人はいませんし、出身地や家族構成なんかを結構話していますよ。時間が20分ありますから、有意義な体験談もおのずと出てきます。」

これまで自分の生い立ちを話してきた会員はほとんど、初めの内は少しぎこちなさを感じていました。考えてみれば、他の兄弟たちに有意義で役に立つことを話したいという気持ちと、自慢話になってはいけないという気持ちがおつかって葛藤が起きるのは当たり前のことなのです。しかしこの心の葛藤が解決されると非常に謙遜な話が必ず出て来るのです。屈託のない体験談、証を築いた経験、長年にわたって学んできた教えに対する考えなどが混然と溶け合っ、ひとつの素晴らしい話となるのです。

深刻な経済的問題から立ち直ったばかりのある兄弟は、什分の一の戒めへの従順を通して経験した数々の奇跡を話して、与えられた時間のほとんどを使いました。

素晴らしい改宗談をしてくれた兄弟もいます。彼は改宗した後、福音の中で成長す

るにつれ、多くの霊的な経験をしました。そしてその話の舞台はドイツからユタまで及ぶものでした。

幼い時に父親を亡くし、苦勞して育った人の体験談もありました。その人は困難な環境の中で年上の兄弟たちが示してくれた素晴らしい模範について靈感あふれる話をしてくれました。

どの人の話の時も、出席者たちはその場にみたまの存在を強く感じています。毎月、違った兄弟たちが前に出て、自分自身を今日ある姿に築き上げてきた様々な体験や生活背景を話していますが、会員たちはその度に、愛と理解の精神の中でさらに親しさを増し加えています。

ピーターソン兄弟は素晴らしい伝道中の体験を話しましたが、話の最後のあたりで、同僚とふたりでひと月に10人の人にバプテスマを施した時のことを語りました。「そのことで伝道部のほかの宣教師たちが私を見る目が変わったようでした。私も自分自身を見る目が変わりました。あの時新たに得た自信は残りの伝道期間と、帰還してからの20年の歳月の中で様々な困難を切り抜けてさせてくれました。」

そしてピーターソン兄弟は、今与えられているチャレンジの幾つかについて話し、証をもって話を終えました。集会の後で、ピーターソン兄弟や出席者の間には、心の通った握手と温かい言葉が交わされました。

あなたの定員会でも、このような素晴らしい雰囲気分かち合うことができます。一人一人が互いに愛し合い、敬虔と理解、そして変わらぬ兄弟愛を築いていくのです。



靈的向上のための の10の提案

ジョー・J・クリステンセン

そう前の話ではありませんが、ある時、ユタ州プロボにある宣教師訓練センターの私の妻のオフィスに、ひとりの若い宣教師が来て、頼みごとをしてきました。その宣教師は私たち夫婦が彼の両親の友人であることを知っていて、クリステンセン姉妹に、父親に電話して、母親の手術がいつ行なわれるか聞いてもらえないだろうかと言ってきました。彼はこう言いました。「一番下の妹のお産の時、母は死にかけるほど容態が悪くなりました。それで私たちは5歳の妹も含め家族全員で母のために断食しました。母は良くなったのですが、以来私は手術ということを考えると、不安になってきて気持ちが落ち着かなくなってし

まうのです。今度の手術の時間が分かれば、それに合わせて断食したいと思ってるんです。」

クリステンセン姉妹が彼の父親に電話をかけました。そして、彼に直接話したいかどうかを尋ねると、彼はそれをするのは宣教師の規則に反するし、ホームシックになってしまうかも知れないからと言って断わりました。電話口に出た彼の父親は、それが宣教師訓練センターからの電話だと知らされ、開口一番、「何か息子に間違いでもありましたか」と言いました。

「いいえ、そんなことではありません。息子さんがお母さんのために手術の前に断食をしたいので、是非手術の日取りを聞いて



個人に与えられた啓示で、特に注目すべきものの中には、個人的な聖典の学習に直接関連して与えられたものが幾つかあります。

て欲しいとおっしゃるものですから。」

「ああ、そうですか。それは悪いことをしました。実は手術はきのうだったのです。5時間ほどの手術でしたが、術後の経過はすこぶる良くて、私たちもとても喜んでいきます。」

その宣教師は電話で何が話されているかを理解すると、顔に喜びの表情を浮かべました。

「父に、愛してるって伝えて下さい。それと、ぼくのキスを電話で送りたいと言って下さい。母や家族みんなにも。」

妻は受話器を置いてから、手術のことを詳しく教えました。するとこの若い長老は、「何で感謝しているのか分かりません。いずれにしても、感謝の断食をします」と言ったのです。

妻のバーバラは日記にこう書きました。「握手を交わして、彼がオフィスを出て行ってから、私は椅子に座って、すすり泣いた。」

数々の教え、経験、環境などが、過去19年の間にひとつに溶け合って、このような優しく、献身的で、かつ謙遜な、感謝することを忘れない子供を作り上げたのです。これは私たちにとって非常に参考になることです。

彼はその成長過程において、断食とは単に腹をすかすだけのことではないと、自分で学んだのです。私は、こういった靈的な特質が、ほかの才能と結び付いて、彼は宣教師として大きな成功を収めるに違いないと確信しています。彼はすでに、日々個人的な靈感を受けることを当たり前と考えるほどに靈性を高めていたのです。

わたしたち夫婦は今、教会の召しで、プロボの宣教師訓練センターで働いていますが、これまで世界中から来る何千人もの素晴らしい人々に会ってきました。宣教師たちが出て来た環境は実に様々です。非常に困難な状況にいた人もいれば、靈的に恵まれた状態にいた人もいます。しっかりとした背景を持っている人もいます。多くの宣教師はすでに強い証と高い靈性を得ていますが、これからそうなろうと努力している宣教師もいます。

成功するには靈性が必要です。靈性なくして成功はあり得ません。実に単純明快なのです。靈性とは、いついかなる時もみたまの導くままに、神のみこころに添った生活をしようという強い望みであり、完全に、また喜んでその導きに従い、みたまのささやきを行動に移していく力でもあるのです。本当に靈的な状態とは、神と共に歩いてい



毎日の生活の中で、より多くの靈感を得たいと望むなら、「早く臥床に入りて疲れを休め」なければなりません。

る状態を言います。また、それは、いかなる状況にあるかを問わず、幸せて成功に満ちた生活を送るための鍵でもあります。

いつのことでしたか、私はある若い宣教師に、彼の父親がその日の朝に不慮の事故で死んだと伝える、辛い役目を仰せつかったことがあります。彼は大変なショックを受け、体を震わせて泣きました。しかしその後で私は、証と高い霊性が生み出す奇跡を目の当たりにしたのです。彼は静かに顔を上げました。その表情には堅い決意が浮かんでいました。彼は母親に電話することに同意しました。しかし、伝道をやめたいというようなことは何ひとつほめかまされませんでした。それどころか、伝道が続けることが父親と天父の望みなのだから、そうするつもりだと言ったのです。私は、彼が示したような、平安と勇氣に満ちた態度を目にしたことはそう何度もありません。彼のように信念と意志が強く、よく備えられた息子なら、どんな父親でも誇りに思うことでしょう。

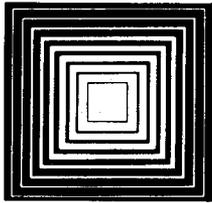
幸いなことに、彼はその人生の中で、福音の真実性について、またイエスこそキリストであり、復活が真実であるという個人的な啓示を受けながら育ててきたのです。こういった真理がすべて、この危機の時に

彼を強く立たせる力となったのです。

霊性と証が身についてくると、人はさらにしっかりと自立し、また自分を高め、自信を持ち、幸福になり、どのような状況に置かれようとも安らかな心でいられるようになります。

確かに、宣教師たちの豊かな霊性と証がなければ、教会がいくら伝道に力を注いでも、今日のような成功を収めることはできなかったでしょう。みたまのささやきがないのに、快適で安らぎのある家庭、家族、そしてよくある例ですが恋人まで後にして、自費で何カ月もの伝道に出る人がいるでしょうか。福音の真実性に対する証と確信こそ、末日聖徒イエス・キリスト教会の「岩」すなわち堅固な基なのです。

私たちが皆、今より以上に霊的な力と個人的な啓示を受けるようになるなら、それは素晴らしい祝福です。プリガム・ヤング大管長はこう言いました。「神の民に授けられた数々の啓示に従って生活をするなら、主のみたまが注がれて、神のみこころを知り、義務を果たそうとする時に導きを与えられるに違いありません。ただ、この点に関して、私たちは特権として約束されている数多くの祝福にあずかれるだけの霊的な生活をしていないのではないのでしょうか。」



主は聖典の中で繰り返す、「汝の心を
はげまして喜べ」と言っておられます。

(Discourses of Brigham Young, sel. and
arr. by John A. Widstoe, Salt Lake City :
Deseret Book co. 1973, p.32)

何年も前に私は、自分の霊性を高め、聖
霊の賜とともに与えられる祝福を受けられ
るようにするには実際にどのようなことを
すればよいか、かなり真剣に考えたことが
あります。それで私は10の質問事項から成
るチェックリストを作り、それを元にして、
月毎に自分の行動を評価することにしまし
た。

もちろん、まだ進歩しなければならぬ
点は山ほどあります。それでも、それを行
なう前と比べれば、みたまの影響をより豊
かに受けていると思っています。以下の項
目を自問して、参考にしていただければ幸
いです。

1. 私は毎日聖典を読んでいるだろうか。

私たちは「キリストの言葉をよく味わえ」と
言われています。時々少しかじればよい
と言われているわけではありません。(IIニ
ーファイ32:3) キンポール大管長の言葉
を見てみましょう。「私は神と密接な関係にな
くなくなったと感じる時、また自分の祈りが神
の耳に達せず、神のみ声が聞こえないよう
に思われる時、私は神からはるか遠く離れ
ていることを知る。そのような時、一生懸

命聖典を読むと、その距離は縮まり、霊性
が回復してくる。」(“What I Hope You
Will Teach My Grandchildren and All
Others of the Youth of Zion,” address to
Seminary and Institute Personnel, Brig-
ham Young University, 11 July 1966, p.6)

個人に与えられた啓示で、特に注目すべ
きものの中には、個人的な聖典の学習に直
接関連して与えられたものが幾つかありま
す。たとえば、教義と聖約76章の、数々の
段階の栄光について述べた示現は、予言者
がヨハネによる福音書の第15章の翻訳に関
連して思いをめぐらしていた時に、ジョセ
フ・スミスとシドニー・リグドンに与えら
れたものです。(教義と聖約76:前文, 15-
24) ジョセフ・スミスの最初の示現も、ヤ
コブ書1章5節を「再三再四思いめぐらし」
た後に与えられたものです。(ジョセフ・ス
ミス2:11-17) また、ジョセフ・F・ス
ミス大管長が死者の贖いに関する示現を受
けたのも、ペテロの第一の手紙の3章18節
から20節、4章6節について深く考えてい
た時です。(死者の贖いに関する示現1-
11)

2. 私は心から祈っているだろうか。空 しい言葉を並べるだけの祈りをしていない だろうか。時々私は、自分がただ言葉を出



怠惰と靈性がひとりの人間の中に同時に存在することはあり得ません。今よりも頻繁にみたまを感じたいと思うなら、「全身全靈を挙げて鎌を入」れなければなりません。

しているだけで、実は祈っていないことに気付いてはとすることがあります。注意していないと、何も考えずに擦り切れた言葉を繰り返すだけの祈りになってしまいます。しかし、そのような祈りで、自分の心の奥底にある思いを主に語ることはできないのです。心からの祈りによって、私たちはさらにみたまに近づくことができます。

3. 私は意味のある断食をしているだろうか。食を絶つただけの断食にしていないだろうか。私は、よく備えをして断食日に臨み、目的を持ち、正しい態度で断食を行なうなら、靈的に強められることを知っています。これは非常に力強い原則です。

4. 私は早寝早起きを励行しているだろうか。毎日の生活の中で、より多くの靈感を得たいと望むなら、「度を過ぎて眠るを止めよ。早く臥床に入りて疲れを休めよ。朝は早く起きて汝の肉体と精神とを活気づけ」(教義と聖約88:124) なければなりません。

マリオン・G・ロムニー副管長はこれと同じ勧告を、当時十二使徒定員会会員であったハロルド・B・リー長老から受けました。それはロムニー副管長が新たに十二使徒補助に召された時のことです。「夜は早く

休み、朝は早く目を覚ますようにして下さい。そうするなら、肉体と精神に休息を得るでしょう。また、朝早い時間に、他のいかなる時よりも多くの知恵と靈感のひらめきを受けるようになるでしょう。」

5. 私は心の中に確かな喜びを感じているだろうか。主は聖典の中で繰り返し、「しっかりしなさい」「勇気を出しなさい」「元気を出しなさい」「心安かれ」と述べ、(マタイ9:2;14:27;ヨハネ16:33;使徒23:11;IIIネーファイ1:13;教義と聖約61:36参照)「汝の心をはげまして喜べ」とも言っておられます。(教義と聖約25:13)つまり、心に喜びを感じていなければならぬということです。もし喜びがないとしたら、私たちの中に何か悪い点があるのです。それを突き止め、できるだけ早く直す必要があります。それをしない内は、心の中に喜びがある時ほどに、みたまを近くに感じることはできません。私たちは、これまで受けてきた数多くの祝福に対する感謝の念を深めることによって、さらに幸福な生活を目指して、大きな一歩を踏み出すことができるのです。

6. 私は一生懸命働いているだろうか。怠惰と靈性がひとりの人間の中に同時に存在することはあり得ません。今よりも頻繁

霊的向上のための10の提案



私たちは人を愛し、仕えることによって、自分がクリスチャンであり、また、さらに豊かにみたまを受けることができることを身をもって示すのです。

にみたまを感じたいと思うなら、「全身全霊を挙げて鎌を入」れ、(教義と聖約31：5)「心をつくし、勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして」働くべしという勧告(教義と聖約4：2)に従わなければなりません。

みたまを豊かに注がれている人について考える時、私は必ずスペンサー・W・キンボール大管長を思い出します。働くという点において大管長が持っている測り知れない能力には、伝説的な香りさえ漂うほどです。感情は行動する前よりも、行動した後^にに生まれてくるとよく言われますが、これは真実です。

7. 私はどのような責任で働くかよりも、どのように働くかという点を大切に考えているだろうか。注意しないと、謙遜に働くことよりも地位(教会の内外を問わず)などに気を取られ、高慢という、すべての人に共通する罪によって霊性を失ってしまうこともあります。救い主イエス・キリストは、自ら席を立ち、使徒たちの前にひざまずき、彼らの足を洗われたあの時に、地位を求めず、謙遜な態度で、喜んで仕えることの完全な模範を私たちに示して下さいました。

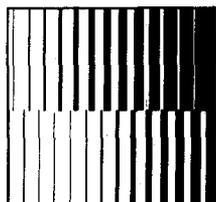
絶対に、嫉妬、地位への野心などで、霊

性を落とすようなことをしてはいけません。教会の責任を全力を尽くして遂行しようとするなら、たとえそれがどのようなものであれ、私たちは皆、今使っている以上のタレントを求められるようになるでしょう。よく考えて行なう謙遜な働きは、キリスト教的精神の特徴です。

8. 私は敵も含めて、すべての人を愛しているだろうか。イエスはこう言われました。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

互いに愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ13：34-35) このふたつの節に書かれている言葉はわずかなものです。そして、言うに易く、行なうに難しという点では、他のすべての聖句と変わりありません。

主は私たちに、好きになれない人も含めて、「敵を愛しなさい」(マタイ5：44)、すべての人を愛しなさいと命じられました。私たちはこの戒めに従うことによって、自分がクリスチャンであることを証明するだけでなく、より強くみたまを感じることができるようになるのです。闘争心、不和、



靈性を高める最も確かな方法は、特に教会員でない人々に、証を伝えることです。

あつれき
軌轍の中で、靈性の向上を望むことはできません。

9. 私は、自分の理想に向かって邁進しているだろうか。実生活がその理想以下のものである限り、私たちは自らの靈性を落としているのです。

イエスは御父と御自身がひとつであるように、教会員もひとつとなるように何度も祈られました。(ヨハネ17:11, 21-22)御父と御子は完全に一致してみ業を行なわれただけでなく、完全な人間とはどういう人間かをよく御存じでした。実際は、御父と御子こそがその完全な姿だったのです。私たちが最終的に目指すのは、神のような者となることです。(マタイ5:48; IIIコリファイ27:27) そうなるためには、贖いを受け入れ、悔い改めに続くイエス・キリストへの信仰によって、自己のあるべき姿を目指して、生活を変えるようにしなければなりません。また、私たちはその過程において、すべての罪を捨て去る必要があります。

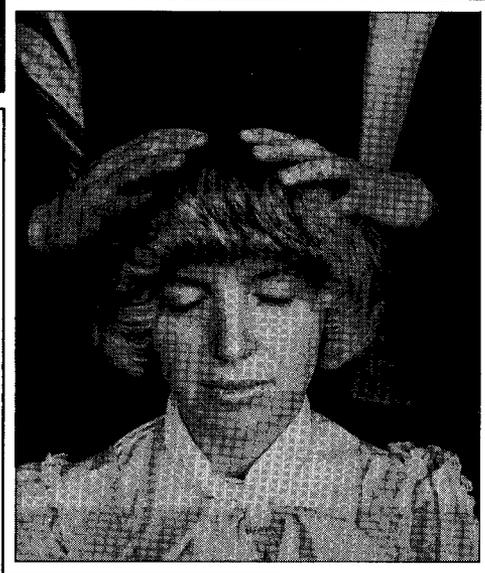
一致を目指して進んでいるなら、今受けている数々の祝福に加えて、平安と、より高い靈性とが与えられるでしょう。このようにして成長していくことこそ、私たちが地上に生まれてきた目的であり、世の人々に伝えなければならないメッセージなので

す。

10. 私は他の人に証を伝えているだろうか。靈性を高める最も確かな方法は、特に教会員でない人々に、証を伝えることです。私たちが救い主と福音の回復を証するなら、聖霊がそのことの真実性を証明してくれます。そして、聞く人だけでなく、その証をする人も共にみたまによる祝福にあずかるのです。私たちの証は不動のものではありません。かなり激しく上昇したり、下降したりするものです。しかしそれをほかの人に伝えることによって、私たちは靈的に成長できるのです。口を閉じて、自分の証を隠すことをしなければ、主は私たちを喜んで下さるのです。(教義と聖約60:2 参照)

この10項目を常に自問することは、私にとってとても有益です。これらの質問は私に非常に実際の幾つかの段階を思い起こさせてくれます。その段階を踏み行なうことによって、靈性を高め、少しずつ、聖霊の賜を授かる者としての特権にふさわしい生活に近づいていくのです。皆さんにも、是非これを試し、生活を豊かなものとされるようお勧めします。確かに聖霊は成功と幸せな生活への鍵なのです。

あなたにとって聖霊とは



コリーン・ベアード

その時私は監督室の椅子に座り、神権を通して力と祝福を受ける素晴らしい機会に浴していました。ワード部のローレル・アドバイザーに任命されたのです。その時に私を任命した副監督の祝福の言葉はほとんど忘れてしまいましたが、ひとつだけ、特に心に強く残った言葉があります。それは、常に聖霊を伴侶として働くようにという勧告です。彼のその言葉を聞いた時、私は燃えるような思いを感じました。そして、その的を得た勧告に心を深く動かされ

ました。

聖霊の導きの必要性を説く指導者の話はそれまでもよく聞き、自分でもみたまの導きを受けた生活をしようと、何度か努力したことがあります。しかしすぐに、自分には無理だと思ってしまい、情けない気持ちになるのが常でした。挫折感に襲われた私はいつも、聖霊を伴侶にできるのは教会幹部とその家族だけだと言い逃れをしていました。そして、正しい生活をしているなら、いつか遠い将来には自分もその祝福に



あずかれるようになって考えていたのです。

与えられたチャレンジが簡単なものでない場合に、言い訳をして自分をごまかすのはとても簡単です。しかし、あの日監督室で任命を受けた時には、そんな逃げ腰の気持ちは湧いてきませんでした。私は主の僕から聖霊を導き手とするように言われた時、主は何年も前のバプテスマの時に授けて下さった勧告を私にもう一度思い起こさせておられるのだと感じました。バプテスマの後の確認の儀式の時、主の代理人が頭に手を置き、「聖霊を受けよ」と言います。どのような理屈をつけても、この勧告と戒めの言葉を消し去ることはできません。

聖霊を受けることの大切さは、過去だけでなく、現在でも言われている事柄です。1896年のあるステーク部大会でウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のようにはっきりと語っています。

「さて、皆さんにもお話したいと思いますが、私はこれまでいつも、神の聖徒には皆聖霊の導きが必要であると言ってきました。……この教会の人は男女を問わず皆みたまを得るよう努力しなければなりません。……地上において神のみ旨を遂行するには、このみたまが必要です。これは他のいかなる賜にも増して必要なものです。……私たちはこの慰め主を与えられるまで、主に祈らなければなりません。これはバプテスマの時に授けられた約束です。それは光、真理、啓示のみたまであり、私たちすべての者が同時に受けることのできるものです。」
(Deseret Weekly, 7 Nov. 1896 pp.641-

43)

聖霊の賜は、男性だけに与えられるものではありませんし、女性だけに与えられるものでもありません。また教会幹部だけに与えられるものでもありません。神の戒めを守るなら、だれでも受けることができるのです。この賜によって私たちは毎日、導き、靈感、慰め、知恵、力、証を受けることができるのです。別な言い方をすると、啓示を受けられるのです。予言者ジョセフ・スミスはこう語っています。「人は聖霊を受ければ必ず啓示を受ける。聖霊は啓示者である。」(History of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 6:58)

それでは、聖霊は私たちをどのように助けてくれるのでしょうか。

個人的な成長

この神権時代に組織された最初の十二使徒定員会の会員のひとり、パーレー・P・プラットは次のように書いています。

「神に似せて造られた知性ある人間は、神御自身が具えておられるあらゆる器官、属性、感覚、憐れみの心、感情を持っている。

しかし、それらはまだ人間が未発達の状態^で有しているものである。……換言すれば、それらの属性は初期の段階にあり、徐々に発達していくのである。……

聖霊の賜は姿を変えて、これらすべての器官、属性に影響を及ぼす。すなわち知的活動を司るあらゆる器官の回転を早め、さらには人間の本性である熱情と愛を増し、

主は自分自身の知恵を用いて、問題の答えを見いだすようにと教えておられますが、私たちがひとり置き去りにしているわけではありません。

拡大させ、またより純粋なものとし、知恵の賜によって律法にかなった用い方ができるようにそれらを変えていくのである。聖霊の賜は、私たちの本性である同情や喜び、審美眼、思いやりの心、そして愛情に靈感を与え、それらを成長、発展、成熟へと導く。さらには高德、親切、善良なる心、優しさ、思いやりの心、愛を呼び覚ます。また姿形に至るまで人を美しくし、健康、活力、生氣、明るさを与える。また聖霊の賜は、心身に活力を与え、勇気をもたらしてくれるのである。要するに聖霊の賜は、昔も今も変わらず、骨に髄を、心に喜びを、目に光を、耳に音楽を、そしてすべての人人に生命を与えてくれるものなのである。

聖霊の賜を受けている人の表情からは、まるで暖かい陽の光のような輝きを感じることができる。そして彼らがかもし出すそうした雰囲気は、わくわくした心、何ら混じり気のない温かな感謝と親切の心を発散させ、同じ気持ちを持つ、言いかえれば霊において共感を持つ人々の心身にまで及ぶのである。」(パーレー・P・プラット、*Key to the Science of Theology*, pp.100-101)

私たちは皆、進歩成長し、神のような者になろうと、毎日努力し、戦っています。また完全な者になりたいという望みを持っています。しかし、そんなことはとても不可能だと思ふことも時々あります。聖霊を抜きにしてこの戦いを考えることはできま

せん。完全な者となるために、力と導きを与えてくれるこれらの賜を求めるのはそのためなのです。

例えば、聖霊は私に自分の不完全な点を教えるという方法で、助けを与えてきました。みたまの導きを祈り求めてから聖典を読むと、特に自分の成長に必要な事柄について書いてある聖句が、私の目に強く訴えかけてきます。そして、それを読む内に、さらに良い行ないをしようという望みがあふれてくるのです。聖霊はこのような知識だけでなく、私たちが目標を達成できるように、ほかにも霊的な賜を授けてくれることがあります。

子供を育てる

子供を育てている親たちは毎日、大小を問わず、数多くの事柄について選択を迫られます。その中のあるものは子供の人生を形作る上で重要な影響を及ぼします。それは当然私たち親にも強くかかわりを持ってきます。主は自分自身の知恵を用いて、問題の答えを見いだすようにと教えておられますが、私たちがひとり置き去りにしているわけではありません。私たちの判断が正しいものであるかどうかを理解させるためにひとつの方法を備えて下さっているのです。親はみたまの導きを通して、最も効果的な方法で子供に接することができるようになり、子供たちのためにささやきを受け



ることができるようになります。

聖霊の導きは、人生の岐路に立たされた時だけでなく、日常の生活の中でも受けることができます。靴ひもがうまく結べなくていらいらしている3歳の子供を助けるためにどうしたらよいか、兄弟げんかをやめさせるにはどうすべきかといった小さな問題について、その場に必要の導きを受けることもできます。靈感として与えられる答えがあまり自然なものに思えるため、それが靈感であると気付かないことがよくあります。しかし、私たちがこの靈感に答えるなら、家庭の中に変化が生ずるようになるでしょう。「聖霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制です。(ガラテヤ5：22-23)私たちはそれぞれの家庭の中であって、どの特質を伸ばしていったらよいのでしょうか。これらの特質が及ぼす良い影響力について考えてみて下さい。

教会の召し

私たちはそれぞれの教会の責任に関連して啓示を受けることができると約束されています。それは、プライマリーの会長であるかホームティーチャーであるか、教会幹部であるかに関係なく約束されていることです。しかし私たちに与えられているのは、この約束だけではありません。積極的に啓示を求め、召しを果たす時の導きとするようにという責任も同時に与えられているのです。

私はこれまで様々な召しを受けて働いて

きましたが、これは靈感だと思える考えが頭の中に浮かんできたことが何度もあります。考えに考え、祈った後で与えられたものもあれば、突然与えられたものもあります。しかし、その答えがどうも今ひとつはっきりしないという場合もあります。しかし、最善を尽くして努力するのなら、これらのささやきを理解する能力を高めることができるのです。聖霊の導きを受ける力を高め、また自分に対する主のみこころを知り、それを行なう勇氣を持った時に、教会の召しの中でどのようなことを成し遂げることができるかを考えてみて下さい。

みたまを伴侶とするには

聖典をよく読むと、聖霊を伴侶とするためには、福音の標準にかなった生活をしなければならぬことが分かります。なぜなら、「主の『みたま』は清くない殿に宿りたまわない」からです。(ヒラマン4：24) ハロルド・B・リー大管長はこう言っています。「この点で成功するための鍵は謙遜な心です。私たちはそれによって、永遠の生命という永遠の観点に立った生活を目指していくのです。それともうひとつは、主のみこころを学ぼうと熱心に努力することです。」(Conference Report, October 1946)

「主のみこころを学ぼうと熱心に努力する」という表現は、熱心に聖霊を求めようと云ったニーファイの訓戒を思い出させます。私たちは聖霊を受けたいと望み、その望みを心からの祈りによって示す必要があります。「而して汝わが名により信じ



私たちはみたまのささやきに対して心を開いて おこななければなりません。それは意識して何度 も繰り返す内に段々とできるようになります。

て、信仰により御父に願わば……聖霊を受
くべし。」(教義と聖約14：8)

福音の標準に従った生活をし、熱心に祈
り、信仰を実践し、聖霊の導きを受けても、
まだ十分ではないと聖典には書かれていま
す。ひとつの想い、感動として自然な形で
与えられる「静かな細い声」、すなわち聖霊
のささやきに耳を傾けなければならぬの
です。予言者ジョセフ・スミスは次のよう
に書いています。「人は啓示のみたまの最初
のささやきを自覚しただけで祝福を受ける。
例えば清い知識が心に流れ込むのを感じた
時、あなたの心にはいろいろな考えが閃光
のように次から次へと浮かんでくるだろう。
そしてそれがその日のうちに実現するこ
とを知るのである。また神のみたまがどの
ようなものかを知り、理解する時、あなた
方は啓示の原則を自分のものとし、やがてキ
リスト・イエスにあって完全な者となるで
あろう。」(*Teachings of the Prophet Joseph
Smith*, p.151)

私はこの言葉の意味を身をもって知らさ
れた経験があります。私がワード部で扶助
協会の会長として働いていた時のある夏の
ことでした。その夏、定員会会長が不在で、
夫にその間定員会の指導をして欲しいと要
請があったのです。そして、会長が戻って
来ないようになったと聞かされた時、私た
ちはひょっとして夫がその後任に召される
可能性もあるのではと話し合いました。し

かし私たちは、学齢前の3人の子供を抱え
て、多くの時間と働きを求められるそんな
責任を果たすことはとてもできないと思い、
そのことは考えないようにしました。

とはいえ、私の中にはまだ、そのことに
ついて祈りをすべきだという気持ちがあり
ました。ある夜祈っていた時にひとつの考
えがはっきりと心に浮かんできました。も
し主が夫をその職に召されたならば、それ
は主が私たちにもその責任を果たす力があ
ると考えておられるしるしだということ
です。よく計画をしてことに望めば、子供
たちを犠牲にする必要もないのです。次の週、
夫がステーキ部長からその召しを受け、支
持された時、私は自分に与えられたささや
きが実現したことを知りました。夫も召し
を受ける前に、その職は自分が果たすべき
ものとして、ちょうどその時期に与えられ
たものであると、聖霊からの示しを受けて
いたそうです。

私たちはみたまのささやきに対して心を開
いておこななければなりません。それは意
識して何度も繰り返す内に段々とできるよ
うになります。また、大きな問題だけでな
く、毎日の小さな問題に対しても、みたま
のささやきに耳を傾けるよう習慣付けな
ければなりません。小さな事柄に関するその
ような教養は、教訓に教訓、規則に規則と
いう形で与えられるものです。なぜそうか
というと、聖霊は私たちの受け入れる能力



に応じて啓示を与えられるからなのです。

ある晩、夫が仕事の都合で、自動車を運転して出かけなければならなくなりました。目的地まではそう長い距離ではありませんでした。夜の7時頃には着くだろうということでした。そして、向こうへ着いたら電話をよこすと言って、出かけて行ったのです。ところが8時を過ぎても何の連絡もありません。私は段々心配になってきて、10時頃には不安な気持ちが募るばかりでした。何度か、とにかく眠ろうと努めてみましたが、2時頃には、聖霊の慰めがなければどうしようもないという状態になっていました。私は寝つけないままに、心配で頭の中がおかしくなってしまうようでしたが、ひざまずいて、もし夫の身に何事も起きてないなら、聖霊の慰めがあり、安らかな気持ちになれるようにと祈り求めました。その夜数分ずつ2度ほど、穏やかな気持ちを感じたのですが、そういう霊的なささやきに耳を傾けるという習慣をあまり身につけていなかった私は、それを受け入れようとしませんでした。何も間違いがなければ、夫はなんとかして電話をよこすはずだと、理屈だけで考えて、その時の思いを無視したのです。翌朝、ようやく夫と連絡が取れました。夫は元気でした。いつもは気の利く夫が電話をするのを忘れただけのことでした。みたまのささやきを拒まずに受け入れていたら、あの夜の苦しみはほとんど味わう必要がなかったのです。

耳を傾け、聖霊のささやきが理解できる

ようになったとしても、まだもうひとつ残されていることがあります。そうです、与えられたそのささやきに従うことです。ひとたび主のみこころを知ったら、怠惰や恐れ気持ちなどで、従うのを引き伸ばしてはいけません。従うには勇気が必要なこともあります。時によっては、行動に移すのを遅らせないように努力しなければならない場合もあります。あの姉妹を何かの活動に参加するよう誘いなさい、また、あの兄弟を訪問して何か困っていることがないか確かめなさいと主のささやきがあつたら、私たちはそれに従わなければならないのです。時機を失すると、そういう人々を助ける最良のチャンスを失ってしまい、しかも2度と与えられなくなるかも知れません。

生活を整え、また、信じて祈り、必要な事柄をよく思いはかり、みたまのささやきに聞き従うなら、私たちは約束された日々の導きと与えられると確信すると共に、これを受け入れ、祝福を得ることができるのです。

教義と聖約には、聖霊を「常に伴侶」とする人の高潔な状態と霊的な進歩について書かれています。(教義と聖約121:46)

自分自身と聖霊との関係について考えてみましょう。あなたにとって聖霊はどのような存在でしょうか。まったく見知らぬ存在でしょうか、時々顔を見せる訪問者でしょうか、それとも常にそばにいる伴侶でしょうか。

「愛をもって互に 仕えなさい」

十二使徒定員会会員

L・トム・ペリー



「兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。」律法の全体は、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』というこの一句に尽きるからである。」(ガラテヤ5：13-14)

奉仕の行ないについては、時の初めから福音の中で教えられてきました。アダムの中から現代に至るまで、人は同胞に仕えるように勧告されてきたのです。私は恵まれて、パウロがガリラヤ人に宛てた「愛をもって互に仕えなさい」という勧告が、実際に形となって表われた例を見ることがあります。

それは私たちの家族がマサチューセッツ

州に住んでいた時のことです。私たちはボストンの西、約20キロほどの所にある、ウェストンという小さな町に家を構えていました。ウェストンは人口約1万1千人ほどの、古風で洗練された雰囲気をつたえた町でした。ウェストンには、石べいが続く、曲がりくねった美しい道路が至る所に走っていました。小さな商店街は、夜の9時ともなればまったく人通りが絶えてしまいました。しかし、この情緒豊かなウェストンにも、それなりの問題がありました。特に、アルコール類が売られていないこの町に、多くの学生たちが麻薬や酒を持ち込んだのです。

しかし、ほかのことに忙しくて、麻薬やアルコールなどにうつつを抜かしてる暇な

どなかったひとりの高校生がいました。この若者はスキーにかなりの時間をかけていました。その地域ではスキー愛好者は決して珍しくありませんでした。しかし、彼がその才能を用いてしたことは、並の行ないではありませんでした。彼は高度なスキー技術を身につけ、スキーを本当に愛していました。実際、彼はスキーのインストラクターで、時間に余裕があれば、ほかの人にスキーを教えるほどでした。彼が生徒のひとりにぴったりと付いて、斜面を滑る姿をよく見かけたものです。生徒は大抵彼よりも年上の人でした。最初はゆっくりと滑り出しますが、次第にスピードが加わって、スロープで鮮やかな方向転換を見せてくれます。滑っている間中、会話が絶えず、そう快な気分できらめく陽光の中を進んでいくのです。他の人々もそのふたりに気付き、ふもとまで目で追いますが、随分楽しくスキーをしているなというくらいにしか見ていませんでした。

人々が気付かなかったことがあります。ふたりの内の片方は盲人だったのです。この高校生は目の見えない人たちにスキーを教えていたのです。無料でです。最初にこのことを思い付いて、他の人たちに話した時は、皆からやめた方がいいと言われました。絶対にできっこないと、何べん言われたか分かりませんでした。

しかし、彼は何の希望もない生活をしている幾人かの盲人を見て、自分の人生の喜びのひとつを彼らと分かち合いたいと思っていたのです。彼らが達成感と喜びを味わい、生活に新たな広がりを見いだし、自分たちも本当に健全な人間なのだという意識を持って欲しいと願ったのです。彼のその望みは心からのものでした。多くの時間を

取り、必要とあらば忍耐をして、愛ある関係を築き、励ましを与え、理解し合おうとしたのです。それは彼らが自分自身と自分の能力を信じることができるように助けるためでした。両者の親交は次第に深まっていきました。

そしてこの目の不自由な人々は彼を信頼し、友としたのです。

彼らが自分たちのスキー靴とスキーを付ける手伝いをさせたのは、この若い高校生だけででした。彼は盲人へのトレーニングについて、大切なのは自分自身を信頼する気持ちを養うことだと話してくれました。それができれば、後の技術的な問題はそう難しくないと言うのです。

彼が最後に語ったことによると、それまで13人の盲人にスキーを教えて成果を収め、さらに多くの人々に教え、盲人のためのスキー指導書を書くように依頼されているということでした。当時、彼には自信がみなぎっていませんでした。それは今でも変わっていないと思います。しかし、もっと大切なことは、彼が揺らぐことのない友情を築き、価値ある奉仕の働きを通して、愛すること分かち合うことを学んだことです。

私たちがこの世で見いだす最高の喜びは、自分自身のためにしたことの中にあるのではなく、他の人々のための奉仕の行ないの中にあるのです。ウェストンのこの若者は目の見えない人々への奉仕を通して、パウロの勧告をひとつの形にしました。そして私たちもまた、「愛をもって互に仕え」ることによってもたらされる価値ある喜びを見い出すことができるのです。

神の祝福があつて、私たちが真の奉仕の喜びを知りたいという望みを持つことができますように。

心を変える



シャーリー・ファンズワース・バーリン

私 たちはどうしても不安な気持ちを抑えることができませんでした。ホール夫人は私たちの求道者の中で、一番熱心なひとりでした。彼女はまだ教会員ではありませんでしたが、すでに教会が真実であることを知っていました。初めに彼女を教えたのは別の宣教師でした。標準的なレッスンを受けモルモン経を読んでいく内に、信じたいという望みが大きくなり、強い証となりました。そして私と同僚は福音の勉強を続けるように勧めていたのです。

ところがそこへ、彼女の妹ジョーン・マ

ッカーサーが尋ねてくることになりました。夫も、どちらの実家の親類も、皆他の教会に熱心な人たちで、ホール夫人としては夫と一緒に福音を受け入れるまで、(少なくとも、当時彼は宣教師に対しては友好的でした)バプテスマは受けたくないという気持ちでした。彼女はまた、自分がしていることと、なぜそれをしているのかをよく理解してもらわない内に教会に入って、家族、特に両親を怒らせることを恐れていました。

ジョーンが、姉のしていることを調べ、モルモンとの付き合いをやめるように警告

心を変える

するために送られてくるのだらうということとはすぐ分かりました。ジョーンはまだ20歳で、家を離れるのはそれが初めてだったと思います。彼女の到着を待つ私たちの方にも不安はありましたが、カナダのプリティッシュ・コロンビア州ビクトリアまでの旅の間、彼女の方にも心配があったと思います。

しかし、ホール夫人は冷静な様子でした。ジョーンが落ち付いてから数日後、ホール夫人は私たちをさりげなく夕食に招待してくれました。ジョーンは、姉がドアの所で私たちを居間に迎え入れるのを見て驚いたろうと思います。おそらく「宣教師」というのは中年の人か、訳の分からないことを話しまくる狂信的な人に違いないと考えていたのではないのでしょうか。私たちの様子は幸せそうで、その上態度もまじめなものでした。ジョーンの方も自分と同じくらいの年齢のふたりの若い女性とのおしゃべりは楽しそうでした。食事の後でひとつのフィルムストリップを紹介すると、彼女はたくさん質問をしてきました。そしてもう一度会う約束を取ったのです。

次の約束の時、ジョーンはたくさん質問とモルモンに関して言い広められた偽りの教えを持ち出してきました。彼女がそれまでモルモンについて聞いてきた反論と偽りの教えが洗いざらい出されました。しかし怒ったような口調ではなく、率直な態度で物を言い、説明を求めてきたのです。彼女が意見を言う度に、私たちは最善を尽くしてそれに答えました。私たちの答えは彼女を納得させたようでした。ジョーンは自

分の聖書をよく使いこなしていて、聖句を次から次と引用しました。また、私たちが引用した聖句に強く心を引かれたらしく、皆でその聖句を調べ、話し合いました。その日以来、私は彼女の霊的な洞察力に深い感銘を受けました。話し合いが最後になった時、私たちは皆、もう少し打ち解け合えたような気がしました。私たちはなぜ「姉妹」と呼ばれるのかを説明し、家族のこと、また18カ月間主に仕える召しを受けさせた自分たちの確信について話しました。ジョーンの方は初めての大陸横断の旅の感激を語りました。

その次のレッスンは背教についてでした。ジョーンはやっきになって反論し、最後には、私たちに家を出て行って、もう二度と来ないで欲しいと言うほどでした。それ以上何も聞きたくないと言い、大分心を乱していました。私たちががっかりし、しょげかえてしまいました。ジョーンは後に手紙の中で次のように書いています。「あの晩、あなた方が帰った後のことを今でも覚えています。ジョセフ・スミスの証の中にある、他の教会はすべて『わが目より見て悪むべきものなり』という言葉のことを考えて、私は激しく泣きました。私が行っていた教会は私にとってとても大切な教会だったのです。私の心は傷付きました。私はそれまでの人生の中で、父母から教わったことを信じてきていました。ですから、あの言葉は、私がいた世界のすべてを打ち砕いてしまったのです。どうしてジョセフ・スミスにそのようなことが言えたのだらうかと思いました。しかし彼は、主がそう語

心を変える

ジョーン・マッカーサーは20歳の時、必要とあらば姉の心を変えさせようと決意してビクトリアにやって来ました。しかし彼女は自分の考えを変える勇気を持っていました。

られたのだと言ったのです。それはどうしても受け入れられない考えでした。

ジェシー（ホール夫人）は私にレッスンを続けなさいとは強制しませんでした、受けてみたらとは勧めました。彼女がいなかったらレッスンは続かなかったと思います。でも私たちの間には家族としてのとても大きな愛があり、私はそれに逆らうことができませんでした。

今にして思えば不思議ですが、私は怒り、憤っていました。あの時にどうしてまだ聞く気が残っていたのだろうかと思います。しかし、主は私に対して憐れみ深く、また耐えて下さいました。問題は、姉妹たちの教えはすべて信じられると思ったのに、まだこれまで通りの教会へ集っていることです。どうしても捨て切れないのです。」

しかしジョーンは真理の探求を途中でやめるような人ではありませんでした。1週間祈り、葛藤を続けた後で、彼女はもう一度私たちを呼びました。彼女の心には変化が起きていました。その変化がいつあったのかは分かりませんでした。福音の回復に関する次のレッスンをした時、彼女に何か変化のあったことが分かりました。反論してこないのです。そして、まるで答えの返りが遅いとばかりに、熱心に質問してくるのです。知識に飢え渴いているようでした。彼女はジョセフ・スミスへのキリストの頭

現が愛の発露であり、地上に伝えられた完全な真理は、あらさがしをする人にはなく、欠けている部分を知りたいと心から願う人々のためのものであることを理解していました。

次のレッスンは救いの計画というテーマでしたが、やはり良い雰囲気の中で進められました。私と同僚は自分たちだけの力で教えていないことを理解していました。言葉はよどみなく流れ、目指す聖句の箇所もすぐに分かりました。心と心の触れ合いがありました。ジョーンは感動して、大きな声でこう言いました。「ジェシーがバプテスマを受けたがっている理由が今分かったわ。」

絶対にこの教会に入らないと宣言していたジョーンも、姉を尋ねてきたばかりの時とは、別人のようになっていました。レッスンを終えてその帰り道、私は心に感ずるものがあって同僚に言いました。「彼女はいつか教会に入るわよ。」

私たちは数回彼女を訪ね、毎回熱の入ったレッスンをしました。それから私は伝道部内の別の地域へ転任になりました。それから伝道を終えて帰還するまでは、この真剣な女性についても、ホール家の人たちについても、何の音信もありませんでした。

ある日、私の家の郵便受けにカナダの消印が押された手紙が届いていました。封を

心を変える

開けると、私の住所を調べて、手紙を出すまで随分時間がかかったことが書かれていました。そして、ジョンとホール姉妹がふたりとも、2年前にあの町の少し外れた所にある冷たい水の湖でバプテスマを受けたことが書かれていたのです。

この手紙を皮切りに、驚くような内容の手紙が何通も届きました。2年後、ある人から、ジョンが南アフリカで伝道していること、また、ホール姉妹の夫バリーはまだ教会のことを学ぶ気持ちになっていないものの、昔と同じように宣教師や会員を愛し、家族を日曜学校に連れて行っていると聞かされました。そうしている内に、今度はジョンからの結婚の知らせが届きました。彼女はソルトレーク神殿で、ある帰還宣教師と式を挙げました。それに続いて同じ年の内にホール姉妹からの手紙が届きました。彼女の夫がバプテスマを受け、教会の責任を喜んで果たしているという内容でした。そして次の年、ふたりは子供たちを連れてソルトレーク神殿に行き、結び固めの儀式を受けたのです。

その後、ホール兄弟は支部長、副ステークキ部長を務め、今はステーク部の高等評議員をしています。ジョンの夫のデール・H・ローブは監督の責任に就いています。ホール姉妹もジョンも活発に責任を果たしています。そして系図を探求し、700人の先祖のために神殿の儀式を行なったということです。

ジョン・マッカーサーは20歳の時、必要とあらば姉の心を変えさせようと決意してビクトリアにやって来ました。しかし彼女は自分の考えを変える勇気を持っていました。真剣に主に祈り求める彼女の熱意は、おのずから正しい選択への道を歩ませたのです。賢明な彼女の姉ジェシーは、忍耐をもって福音を説き、後のことは主のみたまに委ねました。

ふたりとも自分自身の心の奥底の声に耳を傾けるようになりました。そして多くの人々が彼女たちの行ないに、永遠に感謝することでしょう。ジョン・マッカーサーはこの教会に対する考えを変えただけでなく、生き方をも変えたのです。



ハワード・W・ハンター長老は、むかしのことを思い出して、こう話してくださいました。「わたしは、プライマリーをそつぎようしてから、バプテスマを受けました。わたしの父は会員ではありませんでしたが(あとで教会に入りました)、母はアイダホ州ボイシの小さな支部のプライマリーの会長で、しばらくしてMIAの会長になりました。集会所には部屋がひとつしかなかったので、カーテンでしきって教室を作らなければなりませんでした。カーテンをひくのは、執事の仕事でした。わたしは教会員ではありませんでしたから、この仕事をするにはできませんでした。でも、集会には出席しましたし、スカウトの隊にも入っていました。わたしは、アイダホ州のボイシでイーグル・スカウトになりました。

13歳のとき、わたしはほかの子たちとちがっているのがいやになり、バプテスマを受けさせてほしいと父にいました。わたしと妹は、同じ日にバプテスマを受けました。」

ハンター長老が20歳のとき、ステーク部がそしきされ、ボイシ支部の会員たちは教会堂をたてたいと思いました。すると、かんとくさんは会員たちに、教会堂をたてるためのお金を出すやくそくをしてくださいといいました。最初にやくそくをしたのは、ハンター長老でした。ハンター長老は、25ドル出しますとやくそくしました。「1919年のことから、子供にとっては大金でした」とハンター長老はおっしゃいました。

ハンター長老は、ボイシのいなかで大きくなりました。ハンター長老のお父さんは鉄道の仕事をしていたので、週末に家をあけることがよく



小さなお



ありました。でも、家族そろっていろいろなことをしました。ハンター長老は、とくに妹のドロシーさんと楽しく過ごしました。ハンター長老は、今でもドロシーさんととてもしたしくしています。

「今のようにべんりなものは、あまりありませんでした。トイレもうちのドアを出て5、6歩のところにあって、石油ランプをさげて行かなければなりません。家のうらには小屋がありました。母はそこにくだものややさいのかんづめをしまっていました。にわには、やさい畑や、イチゴ畑や、くだもの木がありました。

あるとき、父がこういいました。『草をぬいてくれるとたすかるんだがなあ。』わたしは父をおどろかせようと思って、草ぬきをしました。ところが、草だとはばかり思って、父がうえたジャガイモをみんなぬいてしまったのです。」

子供のころ、ハンター長老はベットが大好きでした。「わたしたちは

友だちへ

お話：ジョリーン・メレディス

ヒヨコをかって、世話をしていました。父は、ウサギ小屋を作ってくれました。それから、わたしはデージーという名前の小犬をかっていました。デージーはわたしの友だちで、わたしの行くところならどこへでもついてきました。

わたしは、ものを集めるのが好きで、何でもかでも集めていました。切手や、お金や、鳥のタマゴまで集めました。家からそう遠くないところに、ぬまや、ガマのはえていると

ころがありましたし、いろいろな木もありましたから、みなさんが知っている鳥はみんなやってきました。ですからいろいろなタマゴがいっぱい集まりました。」

ハンター長老は、音楽が好きになりました。ハンター長老はピアノ、サキソフーン、クラリネット、トランペット、ドラム、それからマリリンバもならいました。そしてダンスバンドを作って、学校をそつぎょうすると、客船のプレジデント・ジャ



クソン号^{ごう}にのって、アジアのいろいろな国^{くに}をまわりました。ハンター長老^{ちやうろう}のバンドは、中国^{ちゆうごく}、日本^{にっぽん}、フィリピンなどで、えんそうしました。

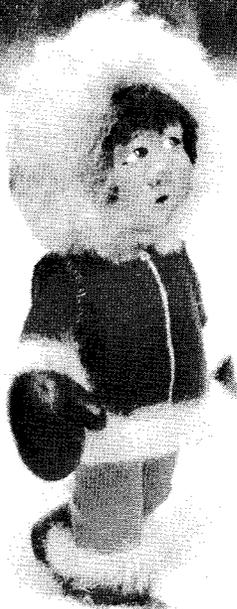
ハンター長老^{ちやうろう}は、ハワイのポリネシア文化センター^{ぶんか}の所長^{しやうちやう}でした。また、かんとくやステーキ部長^{ぶちやう}だったこともあります。そして今は教会^{かい}かかん部^ぶです。ハンター長老^{ちやうろう}はいろいろなせきにんのことを思い出して、こうおっしゃいました。「わたしが大すきだったのは、プライマリーのアドバイザー^{あだいざー}のせきにんでした。10年もやっていたんですよ。わたしはせかい中^{じゆう}のプライマリー^みを見てまわりました。プライマリー^みをほうもんするのだけは、一^{いち}どものがしたことがあります。」

ハンター長老^{ちやうろう}は、けい図^ずきよう会の会長^{かいちやう}としてはたらいていたときのことを、こう話^{はな}してくださいました。「わたしは、あるコンピューター会社^{かい}の人^{ひと}から何^{なん}百万^{びやくまん}ものじようほうを入れることのできるコンピューターができたことを聞き、そのことをマッケイ大かん長^{だい}に話^{はな}しにいきました。

わたしは、うきうきしていました。これにけい図^ずのきろくをしめておくことができると思^{おも}ったからです。わたしが『すばらしいではありませんか』と言うと、マッケイ大かん長^{だい}は、『すばらしいって、何^{なに}がですか。今^{いま}までは、使う^{つか}ひつようがなかったのでしょう』とおっしゃいました。わたしが『はい、しかし今^{いま}は使う^{つか}時に来^きています』というと、マッケイ大かん長^{だい}はこうおっしゃいました。

『そうですね。ですからすばらしいのは、神様^{かみさま}がふさわしいときにふさわしいものをおあたえくださったということなんですよ。』

ハンター長老^{ちやうろう}は、子供^{こども}のころからずっと日記^{にっき}をつけていて、せかい中^{じゆう}の子供^{こども}たちにも日記^{にっき}をつけるようにとおっしゃっています。「きょうは書くほどのことをしなかったと思^{おも}っても、毎日^{まいにち}書くようにしてください。日記^{にっき}に書くひつようがないものは、ひとつもありません。家ぞくのみんなにも、日記^{にっき}をつけるようにしてください。日記^{にっき}は、とてもたいせつなきろくです。」



ぼくは、

「しっかりつかまれっ！むれに出会
うころだ。」又ニバク島の雪の丘に
は、モーターと風のうなる音が聞
こえるばかりだった。ふきわたる風
のために、丘の雪はなめらかになら
されていた。かたくなった白い雪面
に、冬の弱い白がさしていた。

「いたぞ。」お父さんがさけんだ。だ
んだんスピードをおとし、雪上車は
とまった。「モーターはまわしてお
くんだ。とめると、こおちまうか
らな。」ユカックはライフルをとり上
げながらいった。

エージクは雪上車からとびおりて、

雪 上車がスピードを上げると、
エージクのコートをアラスカ
のいてつくような風がふきぬけた。

エージクはうきうきしていたが、
こわくもあった。お父さんについて
ジャコウウシを数えにいくのは、こ
れが初めてだった。

お父さんのユカックの声がした。



おお

もう大きいんだ

お話：ナンシー・ファーレル

じつと前を見た。ジャコウウシは、もう身をまもりたいせいをとり、わを作りながら、いらいらしたようすで足をひきずって歩いてた。ちゃ色の長い毛が風にゆれた。

「毛皮のしき物みたいだ」とエージクはいった。

「あの毛をとれば、あたたかいセーターができるよ。しかし、にげ道がなくなると、やつらはすごくどうもうになるんだ。頭のとつぺんからたれ下がっているのを見てごらん。かたいかつらみたいだろう。もっと近くにっこう。親は自分のうしろに子

供をかくしているんだ。」エージクは、お父さんをじまんに思った。

お父さんは魚や鳥やけもののかんりをするアラスカ政府の役人で、どうもうなジャコウウシのむれがふえるのをみまもるせきにんをもっているのだった。今日は、むれが何頭になったかかぞえなければならない。

ふたりはそつとすばやく雪上車をはなれて、雪の上を歩いているむれをかんさつした。1頭のジャコウウシが体をひくくして頭をふりながら、2、3ほ進んだり、後ずさりしたりした。何かおちつかないようすだつ

た。すると、ほかのジャコウウシもそれをかんじとり、おしあいへし合あいしながらわをわ小さくした。エージクには、1頭とうが頭あたまを前まえにつき出だしているのが見えた。ひつようなら、ただかうぞというふうだった。

「やつらは走はしるのがはやい。おどかしたりしては、いけないよ。」ユカツクは小聲こゑでいった。2頭とうが氷こおりの上うえをすべるように2、3メートル前まえへ出た。

とつぜん、そのジャコウウシは、はなをならしながら、とつ進すすしてきた。ユカツクはとび上あがってジャコウウシのこうげきをさけようとしたが、身みをかわしきれなかった。ライフルはふつとんでユカツクは、氷こおりの上うえになげ出だされた。

エージクはわけもわからずに氷こおりの上うえにたおれながら、さびげ声こゑをあげた。すると、おびえたジャコウウシは、ばくはつしたようにわをこわし、ほう走そうしはじめた。

エージクは、よろけながら立たち上あがり、氷こおりの上うえにたおれているお父とうさんにかけよった。

「お父とうさん、だいじょうぶ？」エージクは大声おほこゑでいった。ユカツクは、目をあけておきあがろうとした。「手て首くびが……おれたらしい、おれは行ってしまったのか？」

エージクはうなずいた。「お父とうさん、立たてる？」

「うでをまっすぐにしなけりゃな」そういつて、ユカツクは、はをくいしばった。

「でも、ほうなんかないよ。」エージクは、何なにかたたくてまっすぐなものを見つけようとして、あたりを見まわした。しかし、北極ほつきょくに近い雪ゆきの原はらには、何なにも見あたらなかった。

エージクは、すぐそばにあるライフルに目めをとめた。「ライフルがあるよ、お父とうさん。ライフルを使つかえばいいよ。」エージクはいった。

「それはいい考えだ。」ユカツクはうなずいた。

エージクは手てぶくろをはめた手てでライフルをとり、だんがんをぬきとった。それから、ライフルの銃身じゆうしんをお父とうさんのそでからひじのあたりまでさしこんで、自分じぶんのコートかわの皮かわひ

もでしっかりくくりつけた。

「さあ、これで家まで大じょうぶだよ。」

ユカックはエージクの助けをかりながら、雪上車の方へ歩いていった。

「お前がうんてんしなけりゃあならんぞ。」ユカックはよい方の手でライフルをくくりつけた手をかかえながらいった。

「ほく、できるよ。」

エージクは、お父さんを座席にすわらせて、雪上車をうんてんし始めた。

エージクは、ゆっくりと、できるだけゆれないように雪上車を走らせた。1時間もすると、家に着いた。

雪上車の音を聞いて、おかあさん

が家のドアをあけた。「どうしたの。」おかあさんはエージクがうんてん席にいるのを見ていった。

「ジャコウウシのやつらが、かんげいしてくれなかったんだよ。エージクがいなかったら、わしはまだ雪の上にいたよ。エージクをつれていってよかった。」お父さんはうでをかかえて、雪上車からおりながらいった。

エージクはかおをあげた。以前エージクはどうもうなジャコウウシを数える手つだいなんか、ほくにできるだろうか、と思っていた。でも今は、エージクにはじしんがあった。「ほくにはできる。ほくはもう大きいんだ。」



ぼくのにつき

よっくんは、わすれんぼうです。おとうとがかいだんからおちて、わらってはいけないときに、^{おお}大きなこえでわらってしまったりします。それに、まっすぐおうちにかえってくるのをわすれて、よりみちをしてしまうこともあります。

でも、けっしてわすれないことがあります。よっくんは、それをねるまえにします。それはおいのりではありません。それは、キンボール^{だい}大かんちょうが、^{たいかい}大会でいつもおはなしすることです。それは、につきをかくことです。

よっくんに、まい日^{にち}どんなことをかんがえ、どんなことをかんじているかきいてみましょう。そう、につきをみせてもらいましょう。



3 がつ18にち ぼくは、プライマリーのプログラムで、せいさん^{かい}会のときに、うたをうたいました。

4 がつ2か きょうはかぞくで、イエスさまのおはなしのテレビをみました。おとうさんは、じゅうじかにかけられたイエスさまをみて、ないていました。

- 4 がつ10か ぼくは、ようちえんにはいりました。
ぼくは、もう大きいんだなあとおもいました。
- 4 がつ17にち かていのゆうべでレッスンをしました。
おとうさんとおかあさんが、たすけてくれました。
- 4 がつ26にち おかあさんは、きょうかいのあたらしいせきにんで、すごくいそがしいです。おかあさんが、そのことについておいのりしているのを、みました。
- 5 がつ17にち ぼくは、おとうさんが大^{だい}すきです。
- 6 がつ10か みんなできょうかいにいきました。ときどき、きょうかいにいきたくないなあとおもいます。でも、ぼくはてんのおとうさまが、ぼくにきょうかいにきてほしいとおもっていらっしやるのを、しています。ほんとうにしています。
- 6 がつ12にち きょうは、かぞくで山^{やま}ごやにいきました。ことりやリスがいました。くらくになると、へんなおとがしました。でもこわくありませんでした。おかあさんが、てんのおとうさまはちかくにいらっしやるのよ、といました。
- 6 がつ21にち おとうさんが、ぼくのとったキリギ



リスのために、たべものをくれました。おとうさんは、キリギリスをしなせたくなかったのです。おとうさんはかみさまのつくったものはみんな、いたいとか、くるしいとか、かんじるのだといいます。

6がつ26にち きょうは、おじさんのうちにいきました。

6がつ27にち キリギリスをにがしてやりました。キリギリスだって、おうちをはなれると、さびしいとおもいます。

6がつ30にち きょう、あかいアリンコがトンネルをつくっていました。てんのおとうさまはこんなにちい小さなものをつくったのだから、おお大きな目があるのだとおもいます。ぼくは、アリンコのあしがどんなふうにごくのか、みえません。

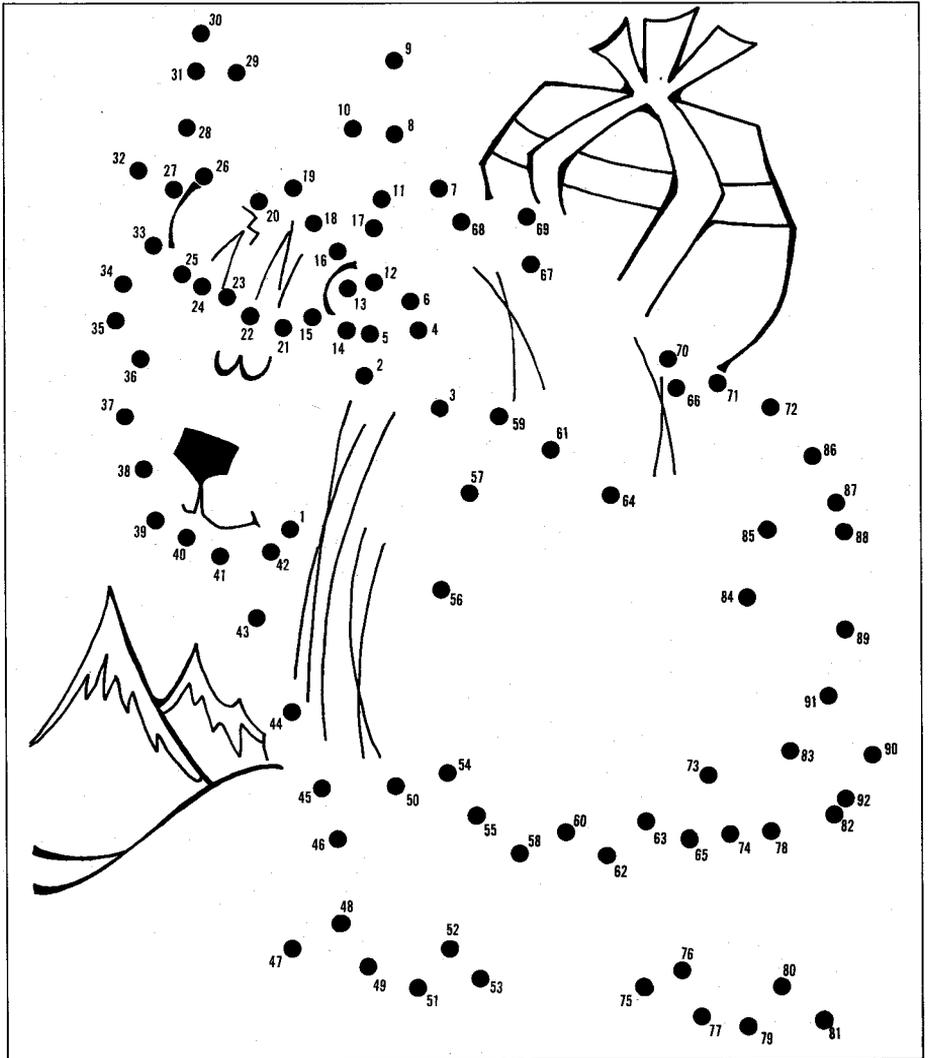
7がつ5か きょうは、ひいおばあちゃんのたんじょうびです。ひいおばあちゃんはほんとうにおばあちゃんです。

8がつ13にち おじいちゃんのおはかに、きれいなはなをもっていきました。おじいちゃんがないと、さびしいです。



てんをむすんでみましょう

ビバリー・ジョンソン



末日聖徒と芸能界

「数多くの試練に勇気を持って」



東京北ステークス部板橋支部 小金澤 篤子

私

がどのような芸能生活を送っているかを、赤裸々にお話しようと思います。また、末日聖徒の中にも芸能界に進みたい方がおられるようなので、少しでも参考になればと思います。

私は今から12年前に末日聖徒になりました。そして一番純真な少女時代を活発な教会員として過ごしました。同じ信仰を持った母や妹にも助けられました。この時期に何事にも動じない信仰を養ったことが後年の私を支える原動力になっています。ただ純心に神を愛しキリストに憧れ、従順に戒めに従いました。多くの罪も犯しましたが、おおむね模範的な聖徒だったと思います。

私は外人の秘書という希望の職業にも就

けましたし、多くの兄弟や教会外の方との楽しい交際もあり、満ち足りていました。でもある日の失恋がきっかけで、本当にやりたかったことをやろうと決心しました。朗読したり、歌ったり、踊ったり、芸事が小さい時から好きだった私は、アナウンサーとか声優になりたかったのですが、当時十代であった私には恐い芸能界に飛び込む勇気はありませんでした。何年かして、この時は何とか自分は大人だという自覚が持てました。そして……俳優養成所の門をくぐったのです。

さあ、それからが大きな試練の始まりです。希望に胸ふくらませて入所した女子同期性の6割は処女^{おとめ}であったと思います。嬾

を紅潮させた初々しい少女たちが、2年の間に確かに洗練され美しくなりましたがどこかに都会風なやつれが漂い、純潔も失っていくようでした。自宅通いの人は私も含めてまあまあ、真面目に生活できますが、親とのトラブルは絶えません。ひとり暮らしの人の生活ぶりは、昼間部の人は夜働きますので良くてウェイトレス、高給を望めばホステスです。夜間部の人は、会社勤めができますが公演や発表会の度に休まねばならず、理解ある会社は少ないですから長続きしません。経済的な心配がなくても、レッスン後には飲む機会も多く、お酒も覚えます。恋愛することもあるでしょう。ひとり暮らしは出入り自由、同棲もしやすい環境なのです。

また私生活で気をつけていても売り出すためにはどんな危険な罫があるか分かりません。私自身「僕と付き合えばいつでもテレビに出してやるよ」と言われたことがあります。チャンスが欲しい人には大きな誘惑です。私には言語道断と受け流しておきましたが……。親が有名人とか実力者、大金持ちでもない限り、多くのタレントはそういう道を歩んでいます。きちんとした人もいますが、本当に難しいことなんです。

養成所時代にピクニックという作品の公演が生まれ、主役にはキスシーンがありました。舞台で本当にする必要はないと主張しましたら、母親の役が当てられました。「かもめ」という作品では酒とタバコにいたりびたりのマーシャの役が割り当てられました。酒はごまかせますが煙は必要でした。私は熱心に祈った結果、最もニコチンの少ないタバコにたくさん穴を開けて使い、苦心して吸っているような演技の研究をし

ました。

私は幸い、シェークスピアやチューホプなどの古典作品に恵まれましたが、アングラやベッドシーン、ヌードのあるものをする養成所もあります。それらは個人の力では動かせないことです。いつでも自分にやめる覚悟がなければ、どんどん流されていきます。

養成所卒業時、俳優になるためのオーディションがありました。その時も神に熱心に祈りました。もしこの道を進み、才能を伸ばすことが正しいなら、そう導いて下さい。そうでないなら、ここですっかり足を洗い、学んできたことを教会内部で役立てましようとして……。

神さまはもっと大きな試練をお与えになりました。私は、オーディションに合格したのです。順調なスタートでしたが、ある時若妻の役が当たりました。ベッドシーンを演ずるわけではなかったのですが、ひとつの布団で寝るシーンがありました。支部長や母に相談した結果、問題はなかったのですが断わることにしました。台本に書かれていないことを要求されたり、それがエスカレートする場合があります、それを見た兄弟姉妹へ及ぼす影響を考えたからです。

その一件が原因で、マネージャーたちの営業部会にかけられることになりました。聞くに耐えない意見や攻撃もありました。私は一歩もひかずに自分の意見を述べました。信仰をさらけ出し、コーヒー、茶、タバコ、酒などのコマーシャルに出ないことも伝えました。

これは大変勇気のいることでした。今振り返ってみても我ながらよくやったとほめてやりたい気持ちです。「新人のくせに生意

「気だ、仕事の範囲を狭めてどうするんだ」と言われ、私のマネジメントを続けるかどうか討議されました。その時は本当に半分あきらめました。やはりこの世界では生きていけないのかなど……。でも正しいことをしている自負はありました。私はそれまで与えられたどんな小さな仕事でも不平を言わず引き受け、一生懸命頑張ったつもりです。

神様はここでも助けて下さいました。広告会社の人やディレクターから名指しで仕事がもらえ、ハンディーが大きくても認められるようになりました。テレビ朝日のアニメのレギュラー、NHK中2理科レギュラー、TBSザ・ベストテン黒柳徹子さんの代役レギュラーが決まり、フジTVのインタビューもたくさんできるようになりました。感謝しています。

仕事の付き合いでお酒の席も多くあります。ムードを壊さず、溶け込みながら自分を守るのは難しいことです。ジンジャーで通していますが、カラオケバーへも、ディスコへも行きます。こういう部分は、ごく若い皆さんには真似して欲しくありません。最初にお話しましたように、少女時代はそのような場所には出入りしませんでした。今大人として分別がつくようになったので、自分でコントロールができるのです。

年齢に関係なく、今弱いと思われる方は十分な証を育ててからにして下さい。今強いと思われる方は、弱いと思う時の100倍用心して下さい。

人にはそれぞれの道があります。神の国の義をまっすぐ求め、この世間的なものとかかわらず清らかに生活できる方もいらっしゃいます。そのような方は本当に幸福で

す。私はできる限り多くの方がそうであって欲しいと願っています。私のように、この世間的な試練の中で神の娘として生きるのはとても苦しいからです。

例の一件以来、私が末日聖徒であることが広範囲に知れわたり、良くも悪しくもまず末日聖徒として見られるようになりました。これは本当に辛いことでもあります。また誇らしいことでもあります。私の一挙一動が責任の重いものになりました。キリストのみ名を受けるとは、そうしたことだと思えます。

辛い時はキリストの贖罪を思います。万人のために命をお捨てになった方。私はだれのためでもない、自分のために苦しみ成長していくのですもの。(こがねざわ・あつこ 板橋支部扶助協会教師)

使用済み切手で 愛の手を

—大阪堺ステーク部堺第2ワード
部の青少年が呼びかけ—

私たちが所属する堺第2ワード部では、去年の夏から青少年が中心となり、ボランティア活動の一環として「使用済み切手運動」を行なっています。この運動は、一度スタンプを押された切手を集めて換金し、BCGやレントゲンフィルムなどの医薬品をアジアの開発途上国へ送り、飢えや病気に苦しむ子供たちを救うために役立てようというものです。

最初は切手の集め方や、どこで切手の取

無料で配布される
ミニコミ紙
「ふるさと新聞」
発行部数
22,500部

「開募途上国の暮れない子と
もたの医療に取つたため、使用
済み切手を送って下さい」と、
二人のクリスチャン高校生が呼び
かけている。
この二人は府立東百舌鳥高校三年
生飯坂久吉君、いずも尚徳君
西野に多く未日野徒(マツジツセ
イト)キリスト教会に所属。
二人の啓明によると、日本使用
されている古切手約二百枚で、B
CG1本が買える資金が得れる
という。これらの資金は、戦火や
各種事情の悪化から、危機に直面
している開募途上国の子どもたち
に医療援助を派遣したり、医薬品を
購入するための資金に使われる。
切手は、すでに使用されたもの
で、透かせば、切手がまっかかぬ
よう、糊面を五割ほど取り、切
り取り、日本切手(外国切手は区
分けて欲しい)のこと。
【発行先】別紙市街路第2-1
①九、教長 飯坂久吉 1-3-2-2

外国の不幸な子のため
古切手を送って下さい

2人の高校生が呼びかけ

●本紙は無料配布紙です。
発行の経費は、すべて広
告収入により賄われます。
ふるさと新聞

りまとめをしているのかが分からずにはい
ましたが、幸いにして、昨年、岡山伝道部より
帰還された安井兄弟がその方面に詳しく、
指導を受けることができました。

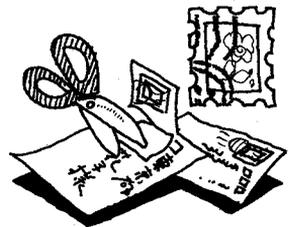
アジアの開発途上国では、戦火や食糧事
情の悪化により、飢えや病気で苦しみ、絶
えず死の恐怖にさらされている子供たちが
約5億人いると言われています。例えばバ
ングラディッシュなどでは、土地を持たない
農民が小作で得る日当は日本円にして100
円から200円程度、また米の値段は1キロ
100円、卵は1個20円もします。これだけ
でもこの国での食糧事情の悪さをうかがい知
ることができます。

当然のことながら、栄養失調による病気
や、妊産婦、乳児における死亡率の高さな
ども大きな問題となっています。また平均
寿命47歳、文盲率75パーセント、ひとり当
たりのGNP約120米ドル(日本の約60分の
1)、……これらの数字が世界的に最悪の貧
困状態を無言のうちに物語っています。こ
のような状態で本当に人間らしい生活が送
れると言えるでしょうか。

現在、切手商や切手収集家の協力によ
って、使用済み切手約200枚でBCG1本が購
入できます。もう使えないはずの切手がた
った200枚で、ひとりの人間を結核による死
から救うことができるのです。私たちのワ
ード部では1年で約1万枚たまりました。

集まった切手はまとめて、海外への医薬品
の送付、医療従事者の派遣、医療留学生の
日本への招聘しょうへいなどを行なっているJ O C
S (日本キリスト教海外医療協会)に送り
ます。付近の教会では岡山伝道部、和歌山
ワード部などでも行なっています。また、
現在、日本各地で多くの人々がこの運動を
展開中です。(レポーター：大阪堺ステーク
部堺第2ワード部・飯坂久吉)

*編集室から：「使用済み切手運動」は数
多くのステーク部で青少年を中心として行
なわれているようです。札幌ステーク部で
は、「愛 Love キャンペーン」と称して古切
手58,409枚を集めたことが報告されていま
す。



カット：河野史代



末日聖徒初の市会議員 挑戦記

——大阪北ステーク部

レポーター：守谷 歓二

(岡町第1ワード部第一副監督)

ている内に、すべきことを一杯し残したまま、10日間の選挙戦はいよいよ本番に突入してしまいました。

「豊中市の有権者の皆様、おはようございます。豊中市会議員候補、無所属新人中川敏一が立候補のご挨拶に参りました。豊中生まれ、豊中育ち、豊中をこよなく愛する者のひとりでございます。若者に夢を、ご老人に愛を、行政に心を！……」のキャッチフレーズで通勤途上の有権者に米つきバツタのごとく深々と頭を下げます。私もずらりと並んだウグイス嬢に交じって大声で訴えましたが、不慣れたためすぐに声がかすれてしまいました。

選挙事務所では紹介者名簿を票にするために電話をかけまくる人、選挙ハガキを書く人、またひっきりなしにかかってくる電話の対応、来客の接待、食事の準備など、ネコの手も借りたいとはこのことかと思えるほどです。ほとんどの協力者は昼間は仕事を持っており、夜、奉仕で協力してくれました。それだけに候補者の妻である中川勝世姉妹の気の使い方は相当なものでした。

「当選したら、次回からは自分たちでやれよ。もうこんな多忙はごめんだよ。選挙なんて手をだすものじゃないねえ」と言いたい放題です。もっとも私もその中のひとりでしたが。

4

月に行なわれた統一地方選挙に大阪北ステーク部からふたりの兄弟が市議会議員選挙に立候補しました。高槻ワード部の山本五一兄弟と岡町第1ワード部の中川敏一兄弟です。私はこのふたりの兄弟の友人として選挙応援をさせていただきましたが、特に中川敏一兄弟の応援を通しての体験を報告させていただきたいと思えます。

立候補の動機は主に次の2点でした。第1に税金の使われ方、第2に教育問題です。ひと昔前までは、東の鎌倉、西の豊中と言われるほど教育レベルの高い市でしたが、現在では平均的なレベルに下がってしまいました。市会に出て市政を変えたいと思いが中川兄弟の立候補の動機となりました。

準備を開始したのは、昨年^{しゅうと}の10月です。週に2度行なわれたこの道素人ばかりの作戦会議は、しばしば深夜にわたりました。まず後援会の組織作りです。事務所を借り、今年1月15日の後援会新年会、3月15日選挙事務所開き、支援者を募るためにあらゆる友人知人に立候補の動機を伝える後援会名簿作りなど、目まぐるしい日々が続きました。

告示日までまだ2カ月ある、などと考え

ほとんどの候補者は告示前に顔写真入り違反ポスターを所構わずベタベタ張りまくっていましたが、こちらはそれもせず、特別な指示団体もなく、友人知人を頼りの選挙戦でしたので、大丈夫だろうかとの不安が脳裏から離れませんでした。とにかく中川敏一をよろしくとの連呼に次ぐ連呼で、時には自転車隊で人込みの中へ入ったり、またこちらから強引に握手を求めたりと、名前の売り込みに懸命の毎日でした。

こうした体験の中で特に感じたことは、本当に有権者に政策を訴える場を作れないことでした。市政に対してあまりにも無関心な人が多く、選挙戦は政策を戦わずというよりも名前の浸透を図ることだけを考えざるを得ないのです。

とにかく無我夢中の10日間が過ぎ、4月23日午後8時、厳しかった選挙戦を終えました。あとは翌24日の有権者の審判を待つばかりです。投票日は安息日です。ワード部出席者数の10パーセントを占める中川一家9人は、何事もなかったかのように礼拝堂に座っていました。聖餐会の司会をする私は前の席に座って祈りました。「主よどうか思いをかなくて下さい……。」

翌日の月曜日は開票日です。いつものように私は仕事のために事務所へ向かいました。昼頃には当落が分かります。しかし昼前になっても電話がなく、待ちくたびれて選挙事務所へ電話をすると、「だめだった」との返事でした。一瞬冷や汗が額ににじみ、中川夫婦の落胆を思うと声も出ませんでした。結果が分かってすぐに頭に浮かんだことは、もっと確実な方法はなかっただろうかと、あと一歩だったのに、と反省することばかりでした。

一方、高槻ワード部の山本五一兄弟はめでたく当選しました。私は半分泣いて半分笑ったような次第です。山本兄弟は十指に余る地域活動をしており、かたや中川兄弟は完全なバックがなかった。その差が当落を決めたように思えます。新人が現職に食い込むことの難しさがしみじみと身に染みました。

協力者は皆よく頑張りましたが、一番よく頑張ったのは両候補の妻である山本律子姉妹と中川勝世姉妹でした。それに中川家のまだ幼い7人の子供たちも、長い間お母さん不在の日々をよく耐えました。

政治と宗教は本来別のものであり、政教一体の弊害は過去の歴史が証明していると共に現存してもいます。「私たちの教会には政治力は不要であり、福音を広めるのはみ



●高槻ワード部の山本五一兄弟と律子姉妹



●岡町第一ワード部の中川敏一兄弟と勝世姉妹

たまの力である」といつも思っています。が、主の戒めを守り神殿に入る信仰強い政治家もいるべきではないでしょうか。

いつの日か、次の選挙に出ようとする兄弟姉妹が、告示の前、神殿でその思いと願いを問い、その思いが適^あえられる日を夢見ています。(もりや・かんじ)

4日間の神殿 参入ツアー

——札幌西ステーキ部から
59名が参加——

札 幌西ステーキ部では5月3日から6日までの4日間、第3回神殿ツアーを行ないました。札幌ステーキ部の5人の参加者を含め、59人の兄弟姉妹は恵まれて、東京神殿を訪問することができ、大きな感謝と感激に満たされました。一足先に行った数名の兄弟姉妹を除いて、私たちは日航機に乗り込み、私たち末日聖徒とほかにもう一団体程度の乗員しかいなかったために、空席だらけの貸切機のような格好で、3日朝9時50分、千歳空港の滑走路を東京羽田へ飛び立ちました。

今回の神殿訪問では宿泊所が設置されたことによって、今まで都内のホテルまで行き来した時間が短縮され、また滞在期間も2日間から4日間になり多くの神

殿の儀式にあずかることができました。

5月3日の札幌大通り支部の松永兄弟と山口姉妹の神殿結婚の儀式を初め、亡き夫との夫婦の結び固めを受けられた金木姉妹や、夫婦の結び固めを受けられた3組の夫婦、自分の先祖の身代わりの結び固めを受けられた宮川姉妹、青山姉妹、自分の先祖のバプテスマを受けられた中川姉妹、宮永姉妹、滝川姉妹等を含めて、死者のエンダウメントの儀式など、4日間にわたって受けることができ、私たちは確かに主は生きてまい、福音は真実であることを喜びを持って感じることができました。

札幌西ステーキ部の死者のバプテスマは4日と5日の2日間にわたって実施され、27人の身代わりにより数百人の先祖たちの死者のバプテスマを受けることができ喜んでいきます。

5月のゴールデンウィークには、丁度福岡ステーキ部と名古屋ステーキ部からの神殿参入グループと一緒に、金曜日の午



●札幌西ステーキ部の教会員。東京神殿では5月のゴールデンウィーク中に956件のエンダウメントの儀式が行なわれた

後からのセッションを終えて離京するまでに1週間で956件のエンゲウメントの儀式が行なわれたのです。「今週は新記録を作らしましょう」と神殿長は喜びのうちに話されていました。

この間神殿長会の方々や多くの神殿奉仕の方々により心から親切なお世話をいただき大変楽しく過ごすことができました。

私たちは今までハワイまで行かなければ神殿に入ることができませんでした。東京のような近い所に神殿を建てて下さった主と多くの兄弟姉妹たちに感謝しています。

これからも度々神殿を訪問して、シオン山の救い手になりたいと思います。近いとはいえ北海道からは毎週というわけにはいきませんが団体ツアーにより行き易くなりましたので、度々神殿に参入することにより、主の道を本当に直く歩いていきたいと思えます。この神殿が一握りの兄弟姉妹のものならず、たくさんの人々が参入し、主の豊かな祝福にあずかれるよう願っています。

(レポーター：札幌西ステーキ部高等評議員：北山 明)

神様からのプレゼント

— 奇跡といえる夫の改宗 —

沖縄那覇ステーキ部
小祿ワード部
上地 喬子



2月13日、主人がバプテスマを受けました。ずっと先のことだと思っていただけに体が震えるほどに感激しました。

今年1月の初め、宣教師が我が家を訪問して下さることを話した時、「許可もなしに返事をするな。レッスンを受ける気持ちはない。ましてバプテスマなど受ける気は毛頭ない」ときつい口調で言っていた主人ですが、宣教師が家にみえるとすんなりレッスンを受けてくれました。

1回目のレッスンを終えてすぐに、2週

間後の2月13日にバプテスマをとチャレンジされた時、主人は大きくかぶりを振り、手で制しながら「とんでもない。まだ信ずる気持ちにはなれない」と断わりました。その日宣教師は幾つかのチャレンジを与え、主人に閉会のお祈りをお願いしました。主人は「信じてもないのに祈りはできない」と、またも断わりました。しかし宣教師の熱心な勧めにとうとう負けた感じでひざまずきました。

祈り始めた主人の口から出た言葉は「私

のような者に神の使いが来て下さったことを感謝します」という言葉でした。私は主人の祈りを聞きながら温かいものに包まれ、涙があふれてしかたありませんでした。そして3回目のレッスンを終えた時、はっきりと「バプテスマを受けます」と言いました。

一瞬耳を疑いました。奇跡が起こったのではないかと思いました。思わず宣教師と子供たちと共に、ワッと喜びの声を上げました。私と子供たちがバプテスマを受けてから4年の間、機会あるごとに教会の話をし、バプテスマを勧めてもガンとして受け入れず、最近では教会の話をする^いと嫌な表情をし、声を荒立てることもありました。ですから、この時は本当に祝福されていると強く感じました。バプテスマの日まで、奇跡が起こったと思い続けていましたが、何もしないところに奇跡が起こるはずがありません。主人のバプテスマは私たちの奉仕に対する神様からのプレゼントであったのです。

それは1982年、教会堂建設の計画が具体化した時でした。多くの建築資金が必要で、一人一人にチャレンジが与えられるかもしれないという話を聞いた時、私は監督からチャレンジを与えられる前に自分で収める額と支払う方法を決めて主人に相談しました。すると、「君が良しと決めたならそうすればいい」と快く承知してくれました。10回に分けて収めていくことにし、早速4月から始めました。

7カ月ほど過ぎた頃、教会堂建設資金に関する教会の指針が大きく変わり、地元負担金が少ない額で済むようになりました。小禄の建築資金も間に合い、計画していた

労働提供もしなくて済むようになりました。私は自分が収めている建築資金をどうしようかと思いましたが、当初の予定どおり決めた額を収め続けることにしました。

ある時扶助協会の会長に私は自分のしていることを話しましたが、「上地姉妹、あなたは建築資金を収めたことで損をしたという気持ちがありますか」と尋ねられ、私は「いいえ、むしろ満足感と喜びがあります」と答えました。その後建築資金のことは私の頭の中からすっかり消えていきました。教会堂が完成間近になるにつれ、私はそれまでつぶやくことが多く、大したこともしていない自分を省みて、この素晴らしい教会堂に入る資格が自分にはあるのだろうかという思いが強くなり、不安が募りました。

しかし神様はそんな私に対して大きな祝福を与えて下さいました。バプテスマの日、扶助協会会長が、「上地姉妹、ご主人のバプテスマは神様からのプレゼントですよ。姉妹は教会堂建築資金を心から喜んで収めましたね。それに対するプレゼントです。今姉妹が一番喜ぶもの、それは金銭的なものよりもご主人のバプテスマだということを神様はよく知っておられます。しかも教会堂が完成するこの2月という月にですよ」と話されるのを聞いて、何もない所に奇跡が起こったのではなく、確かにこれは神様からのプレゼントだということが分かりました。

私たちが心からの奉仕を行なったり、戒めに添った生活をする時、また「天のお父様」と呼び求める時に確かな返事があることを心から証致します。(うえち・きょうこ 小禄ワード部若い女性会長)

ぞくぞくと召される 日本人宣教師

—名古屋西ステーク部—

名 古屋西ステーク部ではここ1、2カ月の間、実に多くの兄弟姉妹が、伝道の召しを受けています。7月末頃には約20名前後の兄弟姉妹がそれぞれの地で働くこととなります。中村武史ステーク部長の強いチャレンジに応え、ぞくぞくと伝道に出て行きます。さらに伝道に出ようと準備している兄弟姉妹が多くおられます。

ここ一宮ワード部でも7月に橋本みえ子姉妹が伝道に出られますので、4名の兄弟姉妹が各地で働くこととなります。その中で、6月10日に韓国ソウル西伝道部に召された李登美子姉妹の証をお伝えしたいと思います。

私は彼女がバプテスマを受けて以来のホームティーチャーです。この4年間、彼女を見守ってきましたが、その間にいろいろな問題や悩みがありました。それを彼女は本当によく努力され、克服されました。そして、よく成長されました。人が苦難に遭った時、それを克服することにより信仰が大きくなることを目の当たりに見ることにより、それが真実であることがよく分かります。そして彼女はこの度、自分の祖国である韓国に召されました。李姉妹は在日韓国人の姉妹で初めて祖国に伝道に出られます。

私たちは祖国に対する偏見というものをお本当の意味では理解できないかも知れませんが、李姉妹はそれをよく克服されました。

日本で生まれ育った在日韓国人の兄弟姉妹の励ましになればと思います、李姉妹に伝道の準備に忙しい中、証を書いていただきました。(レポーター：名古屋西ステーク部一宮ワード部第一副監督・吉田光男)



祖国、韓国に召され

名古屋西ステーク部一宮ワード部
(現在、韓国ソウル西伝道部で伝道中)

季 登美子

私 は、4月15日に伝道の召しを受けました。希望通りの6月に出発することができます。最近はとても早く召しが来るようで、私の場合も1カ月足らずで届けられました。

伝道に行きたいと思いたったのは、約3年前ですが、その時、是が非でも出る覚悟でした。ところが家族の同意も得られず、私のために祈って、みだまに感じて返事を下さった指導者も、やめた方がよいと言われました。私はかなりのショックを受けました。でも今思えば、その時は伝道に出る

時期ではなかったのです。そして約3年後の去年の大晦日に、再び「伝道」という言葉が浮かび上がり、伝道に出る決心をしたのです。母の了解もふたつ返事で受けることができました。

伝道のことでの私の姉妹に相談したところ、あまり賛成はしてもらえませんでした。 「韓国だったら行ってもいいと思う」との条件付きで認めてくれました。また、母も「韓国だったらいいなあ」と言っていたのです。

ところが当人の私は、わが祖国でありながら、行きたくない気持ちでした。しかし、どうでしょう、中村武史ステーキ部長との面接の当日になると、不思議なことに韓国へ行きたい気持ちで一杯になったのです。そして、さらに不思議なことにステーキ部長の最初の言葉も「どうだ、韓国へ行くか?!」でした。私は「はい、行きたいです」と答えていました。

自分の国に対する偏見は、かなり根強いものがありました。重くのしかかってくるこの世の数々の試練は、ほとんど祖国が原因だったからです。

このことが原因で苦しくて、自ら他界しようとしていた矢先に、1年ほど先に改宗していた姉から福音を聞く機会にあずかったのです。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、この世の煩いをすべて取り除いてくれる憩いの場となりました。私のバプテスマ会と今年のお正月に民族衣装の「チョゴリ」を着ましたが、皆さんがほめて下さり感謝しています。

今はもう偏見が、完全とっていいほど取り除かれています。皆さんの愛に感謝し

ます。また今回の伝道は、神様からの温かいプレゼントだと感じます。

一宮ワード部で培った4年間の愛と神様からいただいた愛によって、病んでいる人人を癒すことのできるこの教会の真実の教えを宣べ伝えたいと思います。私みたいな者がという気持ちもありますが、神様が助けて下さることを知っていますので、きっとできると思います。

ジョセフ・スミスが神様と御子イエス・キリスト様にまみえたことを心から証します。主は私たちを愛して下さいていることを証します。この教会が真実であることを証します。(リ・とみこ)

編集室から

➔「各地のたより」「私の証」「職業と信仰シリーズ」などの原稿を募集しています。また「読者のひろば」に、今月号を読まれての感想文をお寄せ下さい。

➔10月号掲載分締切は8月20日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)を記入して下さい。宛先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室。

■渋谷ブックセンターからお願い

➔ご住所・お届け先変更の場合は、新住所だけでなく、必ず旧ワード部/支部名と旧住所、新ワード部/支部名をも記入して下さい。

➔「聖徒の道」を途中から予約購読される場合料金は次のようになっています。(10月号よりお申し込みの場合は、できるだけ'84年12月号までお申し込み下さい)

'83.8→'83.12 800円	'83.9→'83.12 640円	'83.10→'83.12 550円
'83.10→'84.12 2,680円	'83.11→'84.12 2,520円	'83.12→'84.12 2,360円

私を導いて下さった姉妹 宣教師の死に思う

町田ステーク部町田第1ワード部
石王 恵子



- (写真左)亡くなった福島真弓姉妹
- (右)石王恵子姉妹

お 正月気分もやっとぬけ、もうじき2月というある日、私の元に一通の手紙が届きました。私に福音を伝えて下さった元専任宣教師、佐世保支部の福島真弓姉妹の死を知らせるものでした。「昭和57年3月31日、姉は亡くなりました。病名は胃癌でした」と彼女の妹さんの手紙にありました。

私が彼女と初めて会ったのは、1975年5月、ゴールデンウィークの真最中でした。連休だというのにこれといってすることもなく家にいた私の所へ、彼女が訪れたのです。玄関のチャイムで出てみると、人なつこい笑みをたたえた女性が、ふたり立っていました。そのうちのひとりが福島姉妹でした。

今でも彼女と初めて会った時のことやレッスンの最中のことなど、昨日の出来事のように思い出されます。彼女の笑顔、優しさ、主に対する信仰から私は多くのことを教えられました。彼女は私の模範でした。

その彼女がああ若さで逝くなんて……。私はとり急ぎ彼女の家へお悔やみの手紙を書き、どのような闘病生活を送っておられ

たのか、知らせていただきたいとお願いしました。

改宗して8年、望んでいた神権者との結婚もでき、今、ふたりの子供にも恵まれて幸せな生活を送っているながら、子育てや家事の忙しさにかまけ、主への信仰をなおざりにしている私にとって、10カ月遅れの訃報は、私への戒めのように思えてしかたありませんでした。

4月に入って、彼女のお母様から病院で記していた彼女の日記の写しが送られてきました。その日記を読んで多くのことを思い、考えさせられました。苦しい闘病生活の中でヨブのように(ヨブ3章参照)、獄中のジョセフ・スミスのように(教義と聖約121:1-10, 122章参照)、主にいつまでこの苦しみを忍ばねばならないのですかと慟哭している姿が二重写しになって、私は涙せずにはいられませんでした。

彼女の主への信仰がやがて「生くるも死ぬるもわが誠命を守る者は幸福なるかな。およそ艱難の中にも忠実なる者の報いは天国に於て更に大なるべし。

汝らは今後来らんとする事などに関する

汝らの神のみこころ、および多くの艱難の後に続いて来るべき栄光に就きては、現在肉眼を以てこれを見ることを得ず。

多くの艱難の後に祝福は来る。この故に汝らが大いなる栄えを受くべき日は来るなり」(教義と聖約58：2-4)の聖句に慰めを得る様が克明に記されています。

彼女のお母様の了解を得て、数日分の日記を引用させていただき、彼女の証の一部としたいと思います。

「昭和56年12月8日 入院したくなかった。手術だなんてそんなにひどいとは、自分でも信じられない。『癌の疑いがありますか。』『はい、あります。』ショックだった。主は私を見離されたと感じずにはいられなかった。お祈りして、みこころにかなうならお側にと話したのに、心の弱さからかひどく突き放された感じがした。どうしたらいいのかわからない。まだ生きたい。

12月25日 見舞客、長老たちが毎日来て下さる。親戚の人たち、近所の人々、教会の人たち、家族の愛に心が温かくなる。たくさんプレゼントと手紙を頂いて、とてもうれしい。母の愛と親切に感謝は尽きせない。

昭和57年1月10日 退院。寝ころぶと息ができないほど腸が痛む。しばらくして落ち着く。食べた物をほとんど吐く。苦しくて眠れない。がまんできなくて病院へ行く。体重35キログラム、足腰は歩くと弱い。心もすっかり弱くなっている。

3月26日 この苦しみの日々にかこ、主を信頼する心を持つことが大切と気付く。今までなかった不平ばかり、信頼とは正反対、深く反省して気持ちを持ち直す。……吐き気、痛み、焦燥感、絶え間ない。とても苦

しい、それでも耐えようと思う。何とか主の力を借りて、どんなにみじめな境遇でも永遠の生命がある。試練ならば(判読不明)のように出てくれるようにがんばろう。

3月28日 昼よく眠る。また夜眠れない。苦しい。主に向かって不平を言う。いつまでこの苦しみを受けなければと。その後、少し眠る。吐き気、焦燥感、眠れない。とても苦しいが今朝は癒しを受けた気がした。多くの艱難の後、栄光は来る、しかしその栄光は肉眼にて見ることもあらず。

『この日で真弓のメモは終わりました。翌日からはしゃべるのも息苦しく、酸素吸入を始めました。真弓のメモを読んでいただくのが一番よくお分かりいただけると思い、綴りました。文字はいたって下手の上には病気が重くなって書いたものですから、とても読みにくいのですが、便箋4枚の筆跡が形見として残りました。こうして読みながら書いているうちに、その時々様子を思い出して新たな涙がこみ上げてまいります。31日の1回忌には、教会の人たちも好きだった花を供えて下さり、遺影が花で埋まるようでした。』

このようにお母様は書いて下さいました。伝道に出て、町田の地に多くの種を蒔き、佐世保においては帰還宣教師として活発に働いてこられた彼女から、永遠の生命に至る道、復活について教えを受けた私は幸せだったと思っています。

彼女がレッスンの中で、「死は私たちに与って祝福です。私たちが永遠に進歩するために必要なのです」と言っておられた言葉が昨日のこのように思い出されます。私が現世の生活を終え、主に召される時、私は精一杯生きてきましたと胸を張って言え

るようにしなければならないことを、改めて思われました。

「現世は、人間が神と逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。」(アルマ34:32)

彼女は亡くなってからも私の素晴らしい宣教師でした。彼女は今、主のみもとにおいて平安を受け、主のために働いていることと思います。いつの日か彼女とまた会え

る日は私は楽しみにしています。その時彼女は、あの懐かしい笑顔で、そして数倍に進歩した姿で私を迎えてくれるに違いありません。

主により生かされていることへの感謝と、生きることの尊さ、素晴らしさを忘れずに、一日一日を大切に悔いのない人生を送りたいと思っています。福島姉妹のご冥福を、心からお祈り致します。(いしおう・けいこ 町田ステーク部初等協会第一副会長)

死と隣合わせた私

—自暴自棄な生活からの救い—

横浜ステーク部上大岡ワード部
岸 順之助



私は1978年6月9日にバプテスマを受けました。

以前は感情のおもむくままに泣き、わめき、直情径行型の私は、その感情を抑えるのが本当に苦痛でした。しかし、2年、3年、5年と月日を経るにつれて、今は怒ることも人を感情で裁くことも少なくなりました。

思えば、1978年の1月22日の夜、18年間連れ添った妻の浮気が本気となり、当時中2の息子と高2の娘を残して行方をくらましてしまいました。それからの日々は涙に暮れる毎日でした。そのような日々が、自分の生活に何のプラスにもならないことは十分承知しながらも、何のなす術もない私

でした。

妻が家を出て3日目の夜、私は妻の浮気を電話で仲介していた妻の母を、憎しみのあまり殺してしまうつもりで、台所から出刃庖丁を持ち出し、自動車ですの母の所へ行こうとしました。その時、私のただならぬ気配に気付いた高2の娘は、いちはやく車に乗り込み、少しの間も私の側を離れませんでした。

妻の母の家に着き、口論の末、私が出刃庖丁を取り出して母の胸を刺そうとしました。すると娘は私の庖丁を持った手に取りすがり、「お父さん、少し落ち着いて……そんなこと、お父さんがすると、私は人殺しの娘になってしまう。私を人殺しの娘にだ

けはしないで……」と大声で泣き出しました。その一言で、妻の母に対する殺意は霧の如くに闇の中へ消えていきました。

それからの数週間は酒びりの毎日でした。元来酒嫌いの私は、ビールをコップに一杯飲むと、真っ赤な顔になり、すぐ酔ってしまうのです。その私がウイスキーのジャンボ・ボトルを3日で空にしてしまうほどでした。

ある夜半、私は相も変わらず涙を流し、もっぱらウイスキーを浴びるように飲んでおりました。その時、私は一家心中を思い立ちました。そして前日買っておいたクリ小刀を手にして、娘と息子の寝ている部屋に入っていきました。部屋へ入り、暗い中を手探りで刃物を抜き、娘の側に寄って娘を刺そうとしました。すると、私の気配に気付いた息子が蛍光灯をつけて、「お父さん、どうしたの……」と声をかけてきました。その一言を聞いただけで、私は刃物を衣類の下に隠し、自分の部屋へすぐごとと帰ってきました。

私は当初、神様は何というむごいいたずら^{いたづら}を人々の人生になさるのかと、大層神様を恨んでおりました。それが私に課せられた試練^{しれん}で、神様が私を神の国へ導くための方法であるとも知らずに……。

妻が家を出て1カ月位たった頃、私は私自身の始末をつけるために自殺をしようと決心しました。そのようにすることが、子供を道連れに死ねなかった自分自身への決着だと思ったからです。

汐見台^{しほみだい}の団地に着いたのは、およそ11時半を回った頃でした。夜半の風が冷たく肌を刺し、寒気が鋭く鼻を刺したのを今でもはっきりと記憶しております。

五階建の屋上に着き、涙で物も定かに見えぬ目を見開き、今しも地上目掛けて飛び降りようとしてました。

その時、真向かいの建物の五階で何か人の声がするので、ひょっとそちらの方へ目をやりました。すると親子4人（子供たちはまだ幼かったのです）が、楽しそうに笑い声を上げながら遊んでおりました。そのような光景を目にした私は、もう自殺をすることなどできませんでした。

次の日は日曜日でした。私は朝食も取らずに放心状態で壁を見ておりました。すると娘がたった一言「教会に行ってらっしゃい」と言いました。

前の年の1977年の末のことでした。外は寒気が渦巻き、冷たい風が舞っておりました。「今晚は！」という声に玄関に出てみますと、若いアメリカ人と日本人が立っておりました。それからは、彼らは一週間に1度か2度、我が家を訪れ、イエス・キリストの福音を教えてくださいました。しかし、頑固^{かたくな}であった私は教会へ誘われてもなかなか行こうとしませんでした。そんな私ではありましたが神様は私を教会に導いて下さいました。

教会へ初めて行った時の私とは言いますと、顔は涙でくしゃくしゃになり、悲しみにゆがんでいました。人を信用できなくなって自暴自棄になっていた私の姿は、とても正視できる状態ではなかったと思います。しかし、大勢の兄弟姉妹たちがそんな私を優しく迎えて下さいました。心より感謝しております。

それから3カ月間、私はバプテスマを受けるための勉強を必死になって続けました。神様を受け入れるための心の準備、その戒め

に従うためのレッスン。とても言葉では言い表わすことのできないほどの毎日でした。

今では突っ張っていた心の角も丸みを帯び、へりくだる心が少しは芽生えてきました。人々を愛することも覚えました。主への信仰を得るまで自己肯定の力を考えなかつた私にとって、進歩の兆しが少しずつですが見え始めました。あれほど短気で、けんか早かつた私が、人に謝ることを知りました。人の前では話などろくにできなかった私が、大勢の人の中で証ができるよ

うになりました。

死と隣合わせの毎日をお過ごしていた私に、生命は永遠であるという真理を教えて下さった皆様に心から感謝致します。

1979年3月31日、恵まれてとめ子姉妹(旧姓 齊藤)と子・横浜ステークス部横浜第一ワード部所属)と知り合い、杉田支部(上大岡ワード部へ合併)で結婚式を挙げ、現在、幸福な家庭生活を送っております。

(きし・じゅんのすけ 1929年生まれ、上大岡ワード部長老定員会第二副会長)

シオンのつわもの29名 JMTC第48期生

(讃美歌No.96)



●(写真上)東京神殿の前で記念撮影する日本人宣教師29名。●(下)5月17日から25日までの9日間、トレーニングを受けた第48期生

